

シラバス(講義概要等)

【注意事項】

- ① この「シラバス（講義概要等）」にて授業の内容を十分に確認の上、出願する科目についてご検討ください。
- ② シラバスの記載内容については変更される場合があります。
最新のシラバスは、本学ホームページでご確認ください
(https://cportal.suac.ac.jp/public/web/Syllabus/Websyllabus/UI/WSL_Syllabus.aspx)
- ③ 教室は現在調整中のため、後日お知らせします。
- ④ 出願後に開講曜日・時限が変更される場合があります。その場合、該当科目に出願された方に、個別に連絡します。

令和6年度前期 社会人聴講生・科目等履修生 公開科目一覧

科目コード	講義名称	教員名	曜日	時限	社会人聴講生聴講料(円)	科目等履修生聴講料(円)	科目区分
1	社会調査論	船戸 修一	月曜日	2時限	14,800	29,600	全学科目
2	情報メディアの活用	林 容子	月曜日	2時限	14,800	29,600	資格自由科目
3	経済学基礎	四方田 雅史	月曜日	3時限	14,800	29,600	全学科目
4	近現代の中東B	徳増 克己	月曜日	3時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
5	古代ギリシア・ローマ文化と社会	藤澤 明寛	月曜日	3時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
6	芸術特論A	鈴木 崇	月曜日	3時限	14,800	29,600	芸術文化学科科目
7	経済政策論	鈴木 浩孝	月曜日	4時限	14,800	29,600	文化政策学科科目
8	地域福祉論	小林 淑恵	月曜日	4時限	14,800	29,600	文化政策学科科目
9	近現代の中東A	徳増 克己	月曜日	5時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
10	英米文学史	美濃部 京子	月曜日	5時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
11	産業組織論	鈴木 浩孝	月曜日	5時限	14,800	29,600	文化政策学科科目
12	質的調査法	船戸 修一	月曜日	5時限	14,800	29,600	文化政策学科科目
13	フェアトレード論	武田 淳	火曜日	1時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
14	芸術文化政策の国際比較	伊志嶺 絵里子	火曜日	1時限	14,800	29,600	芸術文化学科科目
15	イスラーム概論	徳増 克己	火曜日	2時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
16	地域社会と芸術文化	伊志嶺 絵里子	火曜日	2時限	14,800	29,600	芸術文化学科科目
17	文化と芸術B	梅田 英春	火曜日	2時限	14,800	29,600	芸術文化学科科目
18	中国の文化と社会	崔 学松	火曜日	4時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
19	日本伝統建築	新妻 淳子	水曜日	1時限	14,800	29,600	文化政策学部科目/デザイン専門科目
20	日本史学A	西田 かほる	水曜日	1時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
21	韓国社会文化論	林 在圭	水曜日	1時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
22	西欧近現代史	永井 敦子	水曜日	1時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
23	地域計画論	藤井 康幸	水曜日	1時限	14,800	29,600	文化政策学科科目
24	現代社会と芸術文化	南田 明美	水曜日	1時限	14,800	29,600	芸術文化学科科目
25	日本文化論	西田 かほる	木曜日	1時限	14,800	29,600	全学科目
26	憲法	塩見 佳也	木曜日	1時限	14,800	29,600	文化政策学部科目
27	日本語文法I	原澤 伊都夫	木曜日	1時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
28	イギリス文化論	美濃部 京子	木曜日	2時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
29	統計学基礎	今井 千恵	木曜日	3時限	14,800	29,600	全学科目
30	中国経済論	兪 嶸	木曜日	3時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
31	モノ・コト論	宮地 良治	木曜日	5時限	14,800	29,600	デザイン専門科目
32	音楽史I	上山 典子	金曜日	1時限	14,800	29,600	国際文化/芸術文化学科科目
33	マーケティング論	森山 一郎	金曜日	1時限	14,800	29,600	文化政策学科科目
34	メディア文化論	加藤 裕治	金曜日	2時限	14,800	29,600	文化政策学科科目
35	インテリアデザイン論	植田 道則	金曜日	2時限	14,800	29,600	デザイン専門科目
36	比較文化論	永井 敦子	金曜日	3時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
37	非営利セクターの経営	石田 祐	金曜日	4時限	14,800	29,600	文化政策学部科目
38	フランス文化論	中田 健太郎	金曜日	4時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
39	英語文学概論B	Ryan Jack	金曜日	4時限	14,800	29,600	国際文化学科科目
40	環境政策論	前田 恭伸	金曜日	4時限	14,800	29,600	文化政策学科科目
41	人間工学	迫 秀樹	金曜日	4時限	14,800	29,600	デザイン共通科目

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
月曜2時限	1	社会調査論	船戸 修一
テーマ	社会について科学的に情報を得る(知る)方法の基礎を学ぶ。まず社会調査の意義と主要な方法について学び、次に方法論について理解し、その後、質問紙法、面接法、観察法、内容分析などの具体的方法とその特徴を学ぶ。方法の技能を学ぶだけでなく、調査目的と対象により最も適切な方法が選べるよう、調査の特性と限界についても解説する。最終的には、実際に使われている様々な社会調査の信頼性と長所・短所を評価し、かつ基本的な調査を自ら実施できるようにする。		
授業の目標	社会調査は、現代社会を社会科学的に分析するために必要な情報やデータを収集する方法であり、実社会を生きていくうえでも有益な知見をもたらす。授業では、まず社会調査の具体的な実例をあげながら、その歴史と意義を学ぶとともに、社会調査で求められる倫理やモラルについて理解する。次に、質問紙法・面接法・観察法・内容分析など具体的な調査方法を学習し、量的調査や質的調査の特徴や限界について理解するとともに、調査結果の分析方法についても習得する。こうして調査目的と対象によって最も適切な調査方法を選択し、基本的な調査を自ら実施できるようにする。		
授業の方法	授業は原則として講義形式で行う。授業では、下記のテキストを使い、社会調査に関連する視聴覚教材も視聴する。毎回授業の理解度を測るための課題も課す。		
評価の方法・基準	平常点(20%)と試験(80%)で評価する。平常点は、毎回授業後に提出する課題を対象とする。授業内容の理解と考察内容を評価する。課題の字数は800字以上とする。試験は、学期末に実施する。		
授業計画	第1回 イン트로ダクション～社会調査とは何か？	テキスト	大谷信介ほか『最新・社会調査へのアプローチ:論理と方法新』(ミネルヴァ書房、2023年)
	第2回 社会調査の誕生～社会調査の歴史について学ぶ		
	第3回 社会調査の具体例～社会調査の実践について学ぶ	参考書	授業で随時紹介する。
第4回 調査倫理の遵守～調査をするうえでのモラルについて学ぶ	注意事項	「統計学」「社会統計分析」「質的調査法」など社会調査関連の授業もあわせて履修することが望ましい。また授業で講義するテキストの範囲については必ず読み、予習したうえで授業に望むこと。とりわけ量的調査を理解するには「数学的素養」が求められることを付記しておく。授業の欠席が5回を超えた場合、成績評価の対象としない。	
第5回 量的調査と質的調査の違い～多様な調査方法について学ぶ			
第6回 社会調査の基本的ルールと道具(1)～概念について学ぶ			
第7回 社会調査の基本的ルールと道具(2)～変数・仮説について学ぶ			
第8回 調査票の作成～質問文・選択肢の作成について学ぶ			
第9回 サンプリングという発想(1)～標本調査について学ぶ			
第10回 サンプリングという発想(2)～サンプリングの技法について学ぶ			
第11回 調査票調査のプロセスとデータ化作業～調査結果のまとめ方について学ぶ			
第12回 調査結果の分析(1)～単純集計・クロス集計・基礎統計量について学ぶ			
第13回 調査結果の分析(2)～統計的検定について学ぶ			
第14回 質的調査の基本～その調査法の意義と可能性について学ぶ			
第15回 質的調査の実際～聞き取り調査・参与観察法・ドキュメント分析について学ぶ			
実務経験			授業に

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
月曜 2 時限	2	情報メディアの活用	林 容子
テーマ	-		
授業の目標	<p>○学習センターとして機能し、児童生徒の学習を支える学校図書館で扱う各種情報メディアの特徴とその活用方法について説明できる。</p> <p>○学校での授業に必要な情報の探索方法および指導方法に関して、司書教諭として必要とされる知識を身に付けることができる。</p> <p>○メディア活用能力の育成に有効なパスファインダー作成の技能を身に付けることができる。</p> <p>○情報活用能力を育成する授業構築における司書教諭の役割について理解を深め、学校図書館のあり方について論じることができる。</p>		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義形式で行う。ただし、第9回の授業は演習形式で行う。 ・学習の基盤となる資質・能力としての情報活用能力を育成する学校図書館のあり方や司書教諭の役割について具体的な授業実践事例をもとに「対話型授業2」を行い、理解を深める ・第5回の授業では「グループワーク」を行い、NIE(教育に新聞を)の実践事例を学ぶ。 		
評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において、理解度把握のために講義内容について的小レポートを作成する。 ・定期試験は論述形式を中心に出题する。 ・評価配分:小レポート30% 課題(パスファインダー作成等)20% 定期試験50%とし、情報メディアの活用や情報活用能力育成において司書教諭に必要な知識や指導方法等を修得しているかどうかを評価する ・成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠する。 		
授業計画	第1回 情報化が進展する社会 第2回 教育・学習理論と情報メディアの活用 第3回 教育メディアの歴史(1)活字資料から視聴覚資料へ・放送教育からデジタルコンテンツへ 第4回 教育メディアの歴史(2)コンピュータの誕生から教育利用へ 第5回 情報メディアの種類と特性(1)図書資料・逐次刊行物・パッケージ系メディア	テキスト	探求 学校図書館学 第5巻『情報メディアの活用』「探求学校図書館学」編集員会 編著 全国学校図書館協議会 2021年刊 ISBN978-4-7933-2278-5 2100円

令和6年度前期

	<p>第6回 情報メディアの種類と特性(2)ウェブサイト・オンラインデータベース・電子書籍 第7回 学校におけるICTの活用 第8回 インターネット情報源と情報検索 第9回 情報検索・情報活用能力を育成するパスファインダーについて 第10回 児童生徒の情報行動の実態と指導 第11回 情報メディアの活用事例(小学校) 第12回 情報メディアの活用事例(中学校)(高等学校) 第13回 特別な支援を必要とする児童生徒と学校図書館メディア 第14回 情報メディアを取り巻く連携の事例 第15回 情報メディアをめぐる課題と展望 ※16 定期試験実施</p>	<p>参考書</p>	<p>「情報を学習につなぐ」全国学校図書館協議会 編 全国学校図書館協議会 2008年 「気になる著作権 Q&A学校図書館の活性化を図る」森田盛行著 全国学校図書館協議会 2019年 「小学校における学び方の指導」徳田悦子著 全国学校図書館協議会 2009年 「パスファインダーを作ろう」石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会著 全国SLA2012年 「学校図書館における新聞の活用」三上久代著 全国学校図書館協議会 2006年</p>
		<p>注意事項の</p>	<p>・出席が全授業時間の3分の2に満たない受講者は成績評価の対象としない。 ・各授業のレジュメと課題は、SUAC manabaにて公開する。 授業に欠席した場合は、SUAC manabaを確認すること。</p>
<p>実務経験 授業に 関係する</p>	<p>実務経験:小学校教諭、司書教諭として学校図書館運営に13年間携わる。 ・静岡県司書教諭発令モデル指定校に勤務。 ・司書教諭の職務内容についての研究、実践をもとに著書を刊行。 ・司書教諭研修会講師 ・県総合教育センター学校図書館研究顧問(平成24年度～28年度) 関連する授業内容:司書教諭として必要な知識や指導方法、学校図書館のあり方について講義する。</p>		

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
月曜3時限	3	経済学基礎	四方田 雅史
テーマ	現代社会で生きていくためには経済現象に関する深い理解が不可欠であり、その経済現象を正確に理解・分析するためには経済理論の知識がどうしても必要である。この授業では、全体として経済理論の前提となる経済に関する知識の習得に主眼を置く。具体的には、文化政策の理解に不可欠な市場メカニズムや市場の失敗を扱うミクロ経済学、景気・失業・物価・金融・為替レートなどを扱うマクロ経済学の基礎を講義し、経済理論や経済政策の学習への橋渡しを行う。		
授業の目標	(1) 経済学の基礎になっている考え方、私たちの生活を円滑にしている経済の仕組みやその課題・限界を理解し、議論に使えるようにする。 (2) 経済学的な考え方から現実の経済を考察・分析できるようにする。		
授業の方法	講義を中心とする。基本的には初回に配るレジュメ集に沿って授業を行う。それを補うため、そして特に時事的な経済問題も、講義の後半で取り上げたいため、統計や新聞記事などを配布し補うことにする。		
評価の方法・基準	manabaで行う小テスト20%、試験80%で評価を行う。基本的には授業の理解度で評価を行う。基本的には経済概念の理解、そして経済学に関係する文章の作成が経済学の概念を正しく使いつつ間違いなくできるかという観点から評価を行う。		
授業計画	<p>若干の変更があるかもしれませんが、以下の内容を講義する予定。</p> <p>第1回 インタロダクション:経済学は何を追求する学問か?</p> <p>第2回 市場経済のメカニズム①—需要と供給</p> <p>第3回 市場経済のメカニズム②—市場経済はなぜ望ましいのか?</p> <p>第4回 市場経済のメカニズム③—市場経済はなぜ望ましいのか?</p> <p>第5回 市場経済の限界①—外部性</p> <p>第6回 市場経済の限界②—公共財・情報の非対称性</p> <p>第7回 市場経済の限界③—所得・資産格差の問題と所得再分配</p> <p>第8回 マクロ経済をいかにみるか(GDP、名目と実質など)</p> <p>第9回 景気変動に対する2つの考え方</p> <p>第10回 金融の仕組みと役割①</p> <p>第11回 金融の仕組みと役割②</p> <p>第12回 金融政策の仕組みと役割①</p> <p>第13回 金融政策の仕組みと役割②</p> <p>第14回 為替レート</p> <p>第15回 国際収支</p>	テキスト	特に1冊を指定することはない。この講義のレジュメをテキスト代わりに用いる。
		参考書	配布資料において参考書などを記す。また授業内で提示することもある。
		注意事項	経済の学習には毎週の積み重ねが不可欠である。途中欠席した受講生から内容が突然難解になったとの感想を毎年いただく。経済を理解するためには毎回欠かさず出席・聴講するようにしてください。
実務経験	授業に		

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
月曜 3 時限	4	近現代の中東B	徳増 克己
テーマ	13 世紀末から第一次世界大戦期まで東地中海地域に覇を唱えた巨大な多民族・多宗教国家オスマン帝国の解体過程を、ムスリムの政治指導者がイスラーム法に基づく統治を行なう「イスラームの家」が一群の国民国家に分裂していく過程と捉えて振り返り、今日この地域で多発している紛争の淵源をこうした国家理念の相剋に求める。この科目はいわゆる「トルコ史」を主たる叙述の対象とするが、必要に応じてバルカン半島やアラブ地域の状況にも言及する。		
授業の 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「長い 19 世紀(≡フランス革命～第一次世界大戦)」におけるオスマン帝国の崩壊過程を、①この地域の従属化をはかる西洋列強による軍事・経済の両面における影響力拡大、②西洋思想に触発された帝国内諸集団による国民(さらには国民国家)形成の動き(「民族の覚醒」)、③さらには列強と帝国内諸集団の間の個別的提携と他のグループとの合従連衡による「東方問題」の展開、④それらの動きに直面して「イスラームの家」の伝統を脱し国内の住民全体を国民化しようとの方向での帝国統治機構再編の試み、などの複雑な相互関係として捉えて説明することができる。 ・スンナ派イスラームの政治理論におけるジハードの思想の概要について説明できる。 ・スンナ派イスラームの政治理論における「イスラームの家」内部における異教徒の身分/地位に関する一般的特徴とその下での人々のアイデンティティの特色について説明できる。 ・非カルケドン派や東方正教会系の諸教会、東方典礼カトリックの諸教会など地中海東半を中心とした地域における諸教会の分立や相互の歴史的関係について、古代以来の経緯を理解し説明することができる。 ・ユダヤ教徒をアシュケナズィーム・スファラディーム・ミズラヒームに3分し、それぞれの集団と東地中海地域との歴史的関わりのおおよその特色について説明できる。 ・デヴシルメ制・イエニチェリ軍団・ティマール制・イルティザーム(徴税請負)制などの近代以前のオスマン帝国に特徴的な諸制度(軍制や徴税制度など)について概要を説明できる。 		
方法 の 授業	「授業計画」に基づいて講義を行なう。		
方法・ 評価の 基準	<ul style="list-style-type: none"> ・拙稿に関するコメント:7% ・3回分のレジュメ課題(オスマン史全般・近代アラブ地域・近代バルカン地域):48%(各 16%) ・期末レポート:45% 		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①「イスラームの家」から国民国家へ(科目への「導入」を兼ねて):「西洋の衝撃」がもたらした諸問題 ② ジハードとは何か:「イスラームの家」との関連において ③「イスラームの家」における異教徒の地位/身分:ズィンミーとムスタアミン ④ カピチュレーションと西洋勢力の浸透:「橋頭堡」としてのオスマン領内のキリスト教徒住民 ⑤ 教会史を中心にみた東地中海地域の住民の宗教と言語(1): 古代の公会 	テキスト	<p>どれも教室では使用せず</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オスマン帝国の解体/鈴木董著/2018 年/講談社/1045 円 ・トルコ近現代史/新井政美著/2001 年/みすず書房/4950 円 ・オスマン帝国 500 年の平和/林佳世子著/2016 年/講談社/1408 円 ・オスマン帝国/小笠原弘幸著/2018 年/中央公論新社/990 円 <p>下記地図帳などを常時参照すべし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルマップル世界地図帳/2023 年/昭文社/2090 円

	<p>議と諸教派分裂の構図</p> <p>⑥ 教会史を中心にみた東地中海地域の住民の宗教と言語(2): ネストリウス派、「単性論派」、東方正教会(1)</p> <p>⑦ 教会史を中心にみた東地中海地域の住民の宗教と言語(3): 東方正教会(2)、東方典礼カトリック、ユダヤ教徒(ミズラヒーム、スファラディーム、アシケナズィーム)</p> <p>⑧ オスマン国家の成立と拡大</p> <p>⑨ オスマン中央集権体制の完成と変容</p> <p>⑩ セリム3世による改革の試みと挫折</p> <p>⑪ マフムト2世の改革と帝国をめぐる内憂外患</p> <p>⑫ タンズィマート改革</p> <p>⑬ 短命の立憲政とアブデュルハミト2世の専制体制</p> <p>⑭ 青年トルコ革命と第2次立憲政</p> <p>⑮ 「統一派」の権力掌握から第1次世界大戦へ: トルコ・ナショナリズムの萌芽</p>	<p>[近代オスマン史]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オスマン帝国はなぜ崩壊したのか/新井政美著/2009年/青土社/税込 2640円/ISBN9784791764907 <p>[近代バルカン史]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バルカン近代史/D・ジョルジュヴィイチ&S・フィッシャー・ガラティ著/1994年/刀水書房/在庫切れ(本学蔵書あり) ・バルカン—「ヨーロッパの火薬庫」の歴史/M・マゾワー著/2017年/中央公論新社/税込 1012円/ISBN9784121024404 ・物語 近現代ギリシアの歴史—独立戦争からユーロ危機まで/村田奈々子著/2012年/中央公論新社/税込 946円/ISBN9784121021526 <p>[近現代アラブ地域史]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アラブの人々の歴史/A・ホーラーニー著/2003年/第三書館/絶版(本学蔵書あり) ・アラブ 500年史—オスマン帝国支配から「アラブ革命」まで 上/E・ローガン著/2013年/白水社/在庫切れ(本学蔵書あり)
<p>実務経験 授業に 関係する</p>		<p>参考書</p> <p>注意事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イスラーム概論」で説明済みのスンナ派イスラームに関する基礎知識はおおよそ身につけているものという前提で講義する。未履修の者は並行して「イスラーム概論」を受講することを強く勧める。「イスラーム概論」未履修のままどうしても受講したいという場合には、開講時までには、開講時までには教員に申し出ること(メール連絡でも可)。 ・2年後期担当の「中東現代史」の履修を検討している者は、この科目は前記の科目に先行する時代を対象とし後々まで影響を及ぼす事象を扱うものなので、履修しておくことが望ましい。 ・「ナショナリズム論」で扱ったアンダーソンやゲルナーらの nation 形成に関わる理論にある程度は馴染んでいることが望ましい。 ・欠席3回までは減点なく許容するが、4回目と5回目の欠席については成績評価時にそれぞれマイナス5点とし、欠席回数が5回を超えた者は単位認定をせず0点とする。 ・インフルエンザやコロナ・ウイルスによる感染に伴う出校停止の場合は、書類が提出されれば、欠席扱いとはしない。 ・就職活動による欠席については、必要書類が提出された場合に限り、2回ごとに1回分の欠席回数としてカウントする。 ・欠席時の授業内容については、電子メール等で教員に問い合わせること。

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
月曜3時限	5	古代ギリシア・ローマ文化と社会	藤澤 明寛
テーマ	古代ギリシア・ローマの文化は、数世紀にわたって古代地中海世界の中心的な位置を占め、その後に成立した「ヨーロッパ」の社会や経済、文化にも大きな影響を与えた。本講義では、文献等の資料を用いて古代ギリシア・ローマの社会、文化、そして経済活動を概観する。たとえば、都市ローマに対する食糧供給とそれが社会に与えた影響などについて論じながら、現代における社会や経済、文化に関する諸問題を考える手がかりを探求する。		
授業の目標	年代や出来事を丸暗記するのではなく、実際に史料を読みながら歴史を再構成する。 西洋の文化と社会の基礎としての「古代ギリシア・ローマ」の重要性を理解する。 現代社会との共通性を見出し、それぞれの興味・関心のある「社会」や「文化」を理解する契機とする。		
授業の方法	授業は実際に史料(岩波文庫、講談社学術文庫、西洋古典叢書などの邦訳)を参照しながら講義形式で進める。 ほぼ毎回、資料を配布するので、必ず読むこと。配布資料は授業の事前・事後学習のためのものでもあり、関連史料も掲載することから、授業時間の Power Point によるスライドと同一ではない。 「アンケート」形式により授業内容の補完を実施することもある。		
評価の基準・方法	出席・筆記試験(自筆ノート・配布資料の持ち込み可)、「アンケート」による総合評価。		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① オリエンテーション ② 古代ローマ史概説 王政 ③ 古代ローマ史概説 共和政:イタリア半島の支配 ④ 古代ローマ史概説 共和政:地中海全域の支配 ⑤ 古代ローマ史概説 共和政の終焉から帝政の始まり ⑥ 古代ローマ史概説 帝政:アウグストゥス帝の登場 ⑦ 古代ローマ史概説 帝政:アウグストゥス帝の政策・継承 ⑧ 社会の構成 市民・奴隷 ⑨ 社会の構成 被解放自由人:奴隷から自由人へ ⑩ 文化の記録 古代文献・法文資料 ⑪ 文化の記録 碑文史料 ⑫ 文化の記録 碑文史料:具体例の紹介 ⑬ 「パンとサーカス」1:食糧供給と安全保障 ⑭ 「パンとサーカス」2:見世物の提供 ⑮ 「パンとサーカス」3:地方都市の場合 ※授業進行状況により内容を変更することがある。	ステキ	
		参考書	教場でその都度、指示します。
		注意講上の事項	授業で扱う事項や史料はほんの僅かであり、岩波文庫、講談社学術文庫、ちくま学芸文庫、西洋古典叢書(京都大学学術出版会)などには、古代ギリシア・ローマ時代の著作が数多く(ほぼ全訳で)邦訳されているので、これらをできるだけ実際に読んでもらいたい。また、配布する資料には最低限、目を通して授業に参加すること。授業で取り上げるテーマは古代ギリシア・ローマといった時代的・空間的に「遠い」世界の話ではなく、今日の社会においても共通する重要なものでもあり、新聞やニュース、身の回りに起こっていることなどにも関心をもってもらいたい。
実務経験	関係する	授業に	

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
月曜3時限	6	芸術特論A	鈴木 崇	
テーマ	文化、芸術の各領域において特に際立った現象、出来事などについてテーマ別に取り上げる。それぞれのテーマに即したより深い考察を扱う。特に、複数の専門領域にまたがるような学際的領域にある事象、これまで学問的にあまり扱われることがなかったような最新の事象や理論、研究領域などについても扱い、文化、芸術を新しい視点で切り取る方法を知る。それぞれのジャンル、テーマによってA～Dで展開する。美術、音楽、演劇等のジャンルとともに、社会や時代の要請に応じたジャンルも扱う。			
授業の目標	写真メディアによる芸術表現の黎明期から現在までを概観しながら、近代以降に積み重ねられてきた視覚表現を学び、その表現の多様性について考察する。			
授業の方法	【第1回目の授業は対面で行います】 毎回の講義をふまえて、各自研究、その成果を数回の小レポート、学期末のエッセイ等で発表してもらう。			
評価の方法・基準	出席率、レポート及びエッセイを含めて総合的に評価する。			
授業計画	<p>近代文明の所産として生まれた写真術は、現在私たちの生活に無くてはならないものになっています。</p> <p>カメラが作る画像のイメージは、その誕生以来物事の記録だけにとどまらず、報道や広告など様々に人のニーズを生み出しながら現在に至っています。また写真術が誕生して以降、美術表現の在り方も写真が作り出すイメージとともに大きく変化しました。そしてそれらの表現は、途切れる事なく私たちの「見る行為からなにかを知る」という経験を拡大し続けています。</p> <p>この講義では15回の授業を通して、時系列で写真が作り出してきたさまざまなイメージを見ていながら、それぞれの時代背景や文化に応じて作り出されたイメージのあり方を概観します。同時にその時代の美術との関わりを概観し、数多の芸術家による写真表現によって制作された多くの表現とその意図を理解してもらいます。</p> <p>その上で、それらのイメージが自身にとってどのような意味を持ち、また今の社会に対してどのような影響を与えているのかという事についての考察をしてもらいます。</p> <p>上述した内容をふまえ、受講期間内で数回の小レポート、学期末にエッセイの提出をしてもらいます。</p>	テキスト	必要に応じて配布	
		参考書	必要に応じて授業内で推薦図書を紹介する	
		注意事項		
実務経験	授業に			

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
月曜 4 時限	7	経済政策論	鈴木 浩孝
テーマ	<p>経済政策論は、ある目的を達成するために、いかなる手段が有効であるかを理論に照らして判断することを目的としている。この授業では、経済学の考え方をもとに、市場メカニズムの有効性、市場の失敗に対する政府の市場介入の必要性について考察する。さらに、経済政策を支える様々な理論を踏まえつつ、個人の効用最大化行動が経済政策の効果に及ぼす影響や、それに伴う政府の失敗などにまで視野を広げ、経済政策の意義および効果を客観的に考える力を養う。</p>		
授業の目標	<p>市場メカニズムの機能と限界、政府による市場介入の必要性の根拠、政策と個人の行動との関係、政府の失敗などの観点から、経済政策を客観的に分析する力を身に付ける。</p>		
授業の方法	<p>授業は講義形式で行う。 manaba を用いた小テストや課題により、各回の理解度を確認する。</p>		
評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 80%(小テストまたは課題). ・その他 20%(授業における口頭問題に対する回答等の積極性). 		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①マクロ経済学の復習(均衡国民所得, 乗数効果) ②財政政策(1): 政府支出乗数, 減税乗数 ③財政政策(2): 乗数に影響を与える要因 ④財政政策(3): 基礎的財政収支, 財政規律 ⑤金融政策 ⑥交換の利益 ⑦価格規制 ⑧消費者需要の理論(1): 無差別曲線, 限界代替率 ⑨消費者需要の理論(2): 代替効果, 所得効果 ⑩消費者需要の理論(3): 補償所得 ⑪消費者の経済行動と給付政策(1): 所得補助 ⑫消費者の経済行動と給付政策(2): 価格補助 ⑬公共選択の理論(1): 中位投票者定理 ⑭公共選択の理論(2): パレート改善 ⑮政府の失敗 	テキスト	プリントを配布する。
		参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・柳川・永合・藤岡編『セオリー&プラクティス 経済政策』有斐閣(2017年) ・河合他『経済政策の考え方』有斐閣(1995年), ・池上彰『これが「日本の民主主義」!』集英社(2016年), ・多和田・近藤『経済学のエッセンス 100 第3版』中央経済社(2018年), ・清野一治『ミクロ経済学入門』日本評論社(2006年), ・吉本佳生『スタバではグランデを買え! —価格と生活の経済学』ダイヤモンド社(2007年) ・川本他『世の中の見え方がガラッと変わる 経済学入門』PHP 研究所(2016年) など.

		受講事項の 注意 事項	<p>【履修条件】 ・学科必修科目の「経済学」を履修済みであること。</p> <p>【出席に関する事項】 ・出席が全授業時間の3分の2に満たない受講者は成績評価の対象としない。</p> <p>【履修に備えて行っておくべきこと】 ・学科必修科目の「経済学」を復習しておくこと。 当科目では「経済学」の思考法を習得済みであることを前提に授業を行う。</p>
授業に 関係する 実務経験	企業の実務において割引現在価値に関する客観基準作成の経験あり。		

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
月曜 4 時限	8	地域福祉論	小林 淑恵
テーマ	福祉には児童家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉等の領域があるが、いずれも地域社会や地域住民との関係性が強く、福祉施策・サービスの実施主体も、自治体や社会福祉協議会等の地域の主体が中心になっている。本科目では、地域社会とその住民が直面する現状を踏まえた上で、地域福祉の理論・制度や行政施策の推移、さらには、地域福祉に関わる機関・団体、人材、ボランティア・NPO 等の活動の実態を概観する。その上で、地域福祉が抱える課題や解決のあり方を検討する。		
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 文化政策の学びにおける「地域福祉」の重要性を理解する 2) 地域福祉が発展した経緯や理念を理解する。 3) 地域福祉の理論と方法について基本的な知識を学ぶ。 4) 行政、NPO、民間企業といった様々な主体による地域福祉の実践について学ぶ。 5) 地域福祉の実践について見聞を広めることで、社会課題の発見力、課題解決力の礎とする。 6) 地域福祉を活用によって、誰もが自身のライフコースにおける選択の可能性が広がることを知る。 		
授業の方法	<p>【講義形式】※授業の初回は対面で行う。</p> <p>地域福祉についてその全体像を理解するため、まずは講義形式で歴史的変遷や概念、組織的の枠組み等について理解する。その上で、実際に多様な地域福祉を行う組織や団体の活動を見聞きし、より実際的な理解を深める。授業の中で3～4回の課題(感想、ミニレポート)を課す。授業内容を振り返り復習することを狙いとし知識の定着を図る。期末試験を実施することで、授業で学んだ知識を理論的・体系的に整理する。インプット、アウトプットの両方をバランスよく行い、地域福祉に関する知識の定着と現実的な理解を深めることを目指す。</p> <p>令和6年度に予定しているゲストスピーカー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・静岡県 健康福祉部 福祉長寿局 介護保険課による「介護人材育成事業」等について ・ジブリングサポート兄弟児について知る。 		
方法・評価の基準	<p>期末テストを行う。授業への出席状況、授業への参加姿勢、レポート等の提出状況と合わせて総合的に判断して評価を行う。(配点:授業への出席・参加姿勢30%、レポート等の提出物30%、期末試験40%)。</p>		

授業計画	①文化政策学科での学びと地域福祉 ②現代家族の変容(1)人口と就業構造 ③現代家族の変容(2)家族と世帯の変化 ④地域福祉の台頭 ⑤地域福祉の発展過程 ⑥地域福祉の確立 ⑦地域福祉とは ⑧福祉と教育 ⑨地域福祉の実践(1) ⑩地域福祉の実践(2) ⑪介護職における外国人人材の活用制度 ⑫社会福祉の概念 ⑬生活困窮者(貧困)問題 ⑭子どもの貧困 ⑮ゲストスピーカーによる講演	テキスト	坂田周一(2020)『社会福祉政策 第4版—原理と展開』有斐閣アルマ ※2000年から版を重ねている良書であるため、購入することを推奨する。
		参考書	社会福祉士養成講座編集委員会(編)(2015)『新・社会福祉士養成講座(9) 地域福祉の理論と方法 第3版』中央法規出版株式会社 ※その他、授業の中で適宜、紹介する。
		受講事項の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は対面で実施する予定であるが、新型コロナウイルスの感染拡大等により対面授業を実施することができなくなった場合、オンライン方式、またはオンデマンド方式で遠隔授業を実施する。遠隔授業で実施することになった場合には、SUAC manaba を利用して連絡や資料配布等を行う。 ・また、オンライン方式での学習効果が高いと判断された講義に関しては、オンラインで実施する場合がある。 ・授業に関する連絡はSUAC manaba のコースニュース等を通じて行うので、学期中はmanaba を定期的に確認すること。 ・授業の実施方法にかかわらず、テキスト(教科書)の購入が必要になる。生協等を通じて早めにテキストを購入しておくこと。
実務経験 関係する 授業に	担当教員は人口論や労働経済学を学術基盤とし、家族形成、ライフコースの専門家で多数の著書、論文がある。日本人口学会会員。浜松市総合戦略会議の委員、静岡県障害者文化芸術活動支援センターみらーと協力委員他。		

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
月曜 5 時限	9	近現代の中東A	徳増 克己
テーマ	世界有数の産油国であるのみならず、中東随一の大国にしてそれ自体が一つの中華世界をなす国イラン。カージャール朝からパフラヴィー朝を経てイスラーム共和国に至るまでのその歴史を、イスラーム以前にさかのぼる古代ペルシア以来の文化的変容を踏まえつつ、近代化の過程における世俗主義モデルと十二イマーム派イスラームの政治理論の相剋、多民族国家における国民統合の探求、民主主義体制の模索、英露および米ソの狭間で独立維持などの問題を踏まえて概観する。		
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のイランの地形・気候の特徴、住民の言語的多様性とさまざまな宗教信仰について説明できる。 ・イランの伝統には、イスラームのほかにもそれ以前の古代ペルシア文明の伝統があることを認識する。 ・アレクサンドロス大王、アラブ・ムスリム軍、トルコ系・モンゴル系遊牧民などの外来の侵入者がイランの歴史に及ぼした影響について説明できる。 ・ゾロアスター教などの信徒であった住民のイスラーム化とのちの時代のシーア派化に代表される信仰の変遷とその背景について説明できる。 ・主にトルコ系の遊牧民と主にイラン系の定住民の共存する前近代のイラン社会の構造的特色について説明できる。 ・近代以降の英露(のちには米国)などへの従属化の進行と西洋の思想的影響下での反植民地主義運動と連動した国民形成について説明できる。 ・12 イマーム派の政治思想とイラン・ナショナリズムのそれぞれの提唱者同士の複雑で微妙な関係の歴史について説明できる。 ・ウスール学派の政治理論の特色とホメイニーによるその「革新」について概要を説明できる。 ・パフラヴィー朝が抑圧的な体制を築きながらも立憲革命を経た官製ナショナリズムの下で近代国家建設に邁進した王朝であったことについて説明できる。 ・パフラヴィー朝下での「上からの近代化」政策の下で旧来の社会層に加え近代的な中間層もが疎外される状況が生まれて「イスラーム革命」の素地ができあがったことを説明できる。 		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回までは、通常の講義を行なう。(第2回には初回に配布した文献を読んでの感想文の提出を求める。) ・第5回目以降は、冒頭 20 分程度を割り当て学生による課題論文に関する報告(レジュメの配布を伴う)にあて、残り時間で、報告を承けて論文から読みとるべきことを確認した上で関連した補足の説明を主とする講義を行なう。(「事前学習型授業」) ・なお、課題論文に関する発表は受講者一人につき2回を予定しているが、受講者多数の場合には1回止まりとなることもありうる。(その場合にも2回のレジュメの作成を求めることになる。) 		
評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の2回ずつの割当ての回の発表の出来(レジュメの出来を含む):40%×2 ・第2回・第5回～第15回の各課題論文に対する300字程度のコメント:20%(全12回分の総合値) ・レジュメおよびコメントの細かい採点基準については、授業中に事前配布する。 ・初回の「基礎学力調査テスト」の出来は採点の対象外だが、受験(または回答)を忌避した受講者はマイナス3点の扱いとする。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 基礎学力調査テスト／ガイダンス ② イランの国土の地形と気候 ③ 使用言語からみた住民の多様性(1) ④ 使用言語からみた住民の多様性(2)／宗教面からみた特色 ⑤ イラン文明の形成と古代ペルシアの諸帝国 ⑥ アラブ支配下におけるイスラームの受容と近世ペルシア語圏の形成 ⑦ トルコ系(およびモンゴル系)遊牧民の侵入と遊牧民による王朝形成 ⑧ サファヴィー朝の成立とシーア派信仰の定着 ⑨ サファヴィー朝崩壊後の宗教界におけるウスール学派の勝利 	<p>テキスト</p> <p>参考書</p>	<p>教材文献はコピーしたものを manaba 等で前もって配布する。なお、いわゆる「テキスト」ではないが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバルマップル世界地図帳/2023年/昭文社/税込2090円/ISBN9784398201072 <p>などの中東地域が詳しい地図帳で地名や地形を常時参照すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改訂増補 イラン現代史—従属と抵抗の100年/吉村慎太郎著/2020年/有志舎/税込2640円/ISBN9784908672392 を授業と並行して読み進めてほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ カージャール朝の成立～タバコ・ボイコット運動 ⑪ 立憲革命～第一次世界大戦期の混乱 ⑫ レザー＝シャー体制の成立と展開 ⑬ 〈デモクラシー期〉:レザー＝シャー体制の崩壊～石油国有化運動 ⑭ モハンマド＝レザー＝シャー期の〈上からの革命〉:〈白色革命〉と社会の変容 ⑮ イスラーム革命とヴェラーヤテ＝ファキーフ(法学者の統治) 	<p>受講事項の 注意事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「イスラーム概論」で説明済みの12イマーム派イスラームに関する基礎知識はおおよそ身につけているものという前提で講義する。未履修の者は並行して「イスラーム概論」を受講することを強く勧める。「イスラーム概論」未履修者が同科目を受講することなく本科目を受講したいという場合には、開講時までに教員に申し出ること(メール連絡でも可)。 ・「ナショナリズム論」で扱ったアンダーソンやゲルナーらのnation形成に関わる理論を多少は齧っていることが望ましい。 ・各自2回程度の発表の割り当ての回は万難を排して出席すること。「感染症による出席停止」以外の理由で割り当て回に欠席をした場合にはマイナス10点の扱いとする。また、割り当て回に欠席する場合には、その理由の如何にかかわらず遅くとも授業開始の半時間前までにメール等で教員に連絡すること。 ・発表の割り当て回以外の欠席については2回までは減点なく許容するが、3回目と4回目の欠席については成績評価時にそれぞれマイナス5点とし、欠席回数が4回を超えた者は単位認定をせず0点とする。 ・インフルエンザやコロナ・ウイルスによる感染に伴う出校停止の場合は、書類が提出されれば、欠席扱いとはしない。 ・就職活動による欠席については、必要書類が提出された場合に限り、2回ごとに1回分の欠席回数としてカウントする。 ・欠席時の授業内容については、電子メール等で教員に問い合わせること。
<p>授業に 関係する 実務経験</p>			

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
月曜 5 時限	10	英米文学史	美濃部 京子
テーマ	大学生が身につけるべき教養として、代表的なイギリス文学およびアメリカ文学の作家と作品について取り上げる。作家の伝記的事項、および作品の内容、あらすじ、登場人物、文体、テーマや特徴について学ぶ。講義形式ではあるが、原典の一部を味読する。作品そのものに加えて、作品の背景となる時代性や社会問題、とりわけ「文化」について大きく取り上げる。英米大学の講義ビデオ(英語)や、映像作品などの視聴覚教材も随時用いながら講義していく。		
授業の目標	大学生が身につけるべき教養としての、代表的なイギリス文学及びアメリカ文学の作家と作品について——具体的には作家の伝記的事項、作品のあらすじ、登場人物、文体(英語表現)、テーマや特徴等について——知見を得る。文学作品そのものに加えて、作品の背景となる時代背景や社会問題、その国や地域の歴史・文化についても理解する。		
授業の方法	パワーポイントで概説したのち、配布資料により、オリジナルの英文を読む。視聴覚資料なども用いながら、理解を深める。		
評価の方法・基準	平常点(50%)出席だけでなく、manabaによるアンケートで授業をきちんと聞いていたかどうかを判断する。 レポート(50%) 英語で書かれた文学を読み、レポートを書く。		
授業計画	1) 英米文学の始まり 古英語の文学『ベオウルフ』 2) 中英語の時代 チョーサー『カンタベリー物語』 3) 伝説から文学へ アーサー王伝説 4) 英語にも大きな影響を与えた偉大な劇作家シェイクスピア 5) 小説の誕生 冒険物語の系譜 デフォー『ロビンソン・クルーソー』 6) 風刺小説 スウィフト『ガリバー旅行記』 7) ロマン派の詩人たち ワーズワースなど 8) スコットランドの国民詩人 バーンズ、ウォルター・スコット 9) アイルランド文芸復興と独立運動 イェイツ 10) アイルランドからアメリカ、そして日本へ ラフカディオ・ハーン 11) アメリカ文学の始まりとフォークロア 12) アメリカに渡ったイギリスの伝承 13) 開拓時代の英雄とトール・テール 14) 黒人の伝承 ストウ夫人『アンクル・トムの小屋』と J.C.ハリス「アンクル・リーマス」 15) ネイティブアメリカンの伝承	テキスト	特に使用せず、パワーポイントやテキストのプリントを配布する。
		参考書	『よくわかるイギリス文学史』浦野郁、奥村沙矢香編著 ミネルヴァ書房 2020 『はじめて学ぶイギリス文学史』神山妙子編著 ミネルヴァ書房 『イギリス文学入門』石塚久郎責任編集 三修社 2014 『アメリカ民話の世界』皆河宗一著 岩崎美術社 1977 ほか
		注意事項の	
実務経験 授業に			

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
月曜 5 時限	11	産業組織論	鈴木 浩孝
テーマ	この授業では、産業のパフォーマンスを供給サイドから明らかにすることを目的として、具体的な市場構造とそこにおける企業行動についての分析を行う。ナッシュ均衡や後方帰納などのゲーム理論の考え方をを用いて均衡状態を導出し、そこでの企業間による競争のメカニズムや相互依存関係、さらには競争回避策としての結託行動の可能性について考察する。それらをもとに市場成果を評価し、市場メカニズムをより有効に機能させるための取引ルールや競争促進政策のあり方を検討する。		
授業の目標	ミクロ経済学の不完全競争市場理論の考え方をを用いて、企業の行動や産業政策の仕組みに対する分析力を身に付ける。		
授業の方法	授業は講義形式で行う。 manaba を用いた小テストや課題により、各回の理解度を確認する。		
評価の基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 80%(小テストまたは課題). ・その他 20%(授業における口頭問題に対する回答等の積極性). 		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①ミクロ経済学の復習(完全競争市場) ②独占 ③価格差別(1):価格差別の考え方 ④価格差別(2):価格差別の応用 ⑤先読みと均衡 ⑥ゲーム理論(1):純粋戦略 ⑦ゲーム理論(2):混合戦略 ⑧シグナリング ⑨寡占市場の理論 ⑩カルテル(1):カルテルの種類 ⑪カルテル(2):カルテルに対する政策 ⑫製品差別化 ⑬オークション ⑭市場支配力,集中度 ⑮垂直的取引関係:二重マージン,ロイヤルティ 	テキスト	梶井厚志『戦略的思考の技術—ゲーム理論を实践する』中央公論新社(2002年)
		参考書	植草益『現代産業組織論』NTT出版(2002年), 泉田・柳川『プラクティカル産業組織論』有斐閣(2008年), 丸山・成生『現代のミクロ経済学:情報とゲームの応用ミクロ』創文社(1997年), 松原望『社会を読み解く数学』ベレ出版(2009年), 西村和雄『Q&A 1 分間経済学』日本経済新聞社(1998年) など。
		受講事項の注意事項	【履修条件】 ・学科必修科目の「経済学」を履修済みであること。 【出席に関する事項】 ・出席が全授業時間の3分の2に満たない受講者は成績評価の対象としない。 【履修に備えて行っておくべきこと】 ・学科必修科目の「経済学」を復習しておくこと。 当科目では「経済学」の思考法を習得済みであることを前提に授業を行う。
実務経験 関係する 授業に	企業の実務において割引現在価値に関する客観基準作成の経験あり。		

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
月曜 5 時限	12	質的調査法	船戸 修一
テーマ	<p>昨今、社会科学の有効な調査法として「質的調査法」が注目されている。そこで、授業では、この調査法をめぐる状況を解説した上で、インタビュー調査や参与観察など「質的データ」の収集方法に必要な技法を説明する。次に、「グラウンデッド・セオリー」や「KJ法」ならびに「言説分析」など他の分析手法を解説することを通して、「質的データ」分析法の多様性を理解する。さらに、ゼミ論文や卒業論文作成のための調査を念頭に置き、被調査者との関係など「倫理的な問題」についての理解も深める。</p>		
授業の目標	<p>質的調査は、調査対象と密接に関わりながら、調査を進めていく。こうして統計的計算や数字に頼らず、調査対象の詳細な様子や現場の細かいリアリティを把握していくところに、質的調査の有効性がある。授業では、この質的調査に焦点を合わせ、質的調査の主な手法について学びつつ、この調査のポイントを説明する。さらに、質的調査の実践に向けて具体的な事例を用いて調査の進め方を解説する。こうして質的調査について理解するだけでなく、実際に、この調査法が実践できるようになることが授業の目的である。</p>		
授業の方法	<p>授業は原則として講義形式で行う。授業では、下記のテキストを使い、社会調査に関連する視聴覚教材も視聴する。毎回授業の理解度を測るための課題も課す。</p>		
評価の方法・基準	<p>平常点(20%)と試験(80%)で評価する。平常点は、毎回授業後に提出する課題を対象とする。授業内容の理解と考察内容を評価する。課題の字数は 800 字以上とする。試験は、学期末に実施する。</p>		
授業計画	<p>第1回 ガイダンス:質的調査の基本的な考え方 第2回 質的調査の基本的な考え方:量的調査法との違い 第3回 質的調査の手法(1):参与観察法 第4回 質的調査の手法(2):インタビュー 第5回 質的調査の手法(3):ライフヒストリー分析 第6回 質的調査の手法(4):ドキュメント分析 第7回 質的調査研究例の紹介と解説(1):他者を理解する 第8回 質的調査研究例の紹介と解説(2):人間を通して「社会」を理解する 第9回 質的調査研究例の紹介と解説(3):将来を見据えて調査する 第10回 質的調査の実践(1):問いを立て、調査手法を選ぶ 第11回 質的調査の実践(2):フィールドワークを行う 第12回 質的調査の実践(3):会話分析を行う 第13回 質的調査の実践(4):調査報告書を作成する 第14回 質的調査の倫理問題:調査と倫理 第15回 まとめ:質的調査の応用</p>	<p>テキスト 谷富夫・芦田徹郎『よくわかる質的社会調査 技法編』(2009年、ミネルヴァ書房)</p> <p>参考書 授業で随時紹介する。</p> <p>注意事項 「社会調査論」「統計学」「社会統計分析」など社会調査関連の授業もあわせて履修することが望ましい。また、授業で講義するテキストの範囲については必ず読み、予習したうえで授業に望むこと。授業の欠席が5回を超えた場合、成績評価の対象としない。</p>	
実務経験 関係する 授業に			

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
火曜 1 時限	13	フェアトレード論	武田 淳	
テーマ	世界でフェアトレード運動の生まれた歴史的背景とその発展経過を知るとともに、日本のフェアトレード運動の展開と特徴を学ぶ。またフェアトレードラベル制度の確立によって、どのように企業がフェアトレードに参入しようとしているかなど、具体的な事例や実践者の活動を通して実践的な学びを提供する。この授業を通して、グローバル社会を意識した包括的な倫理的消費行動の意義を理解し、それに基づいた判断のしかた、行動方針、および具体的な行動について学ぶ。			
授業の目標	<p>フェアトレードは、国際協力(開発)でありビジネスの側面も持つ。また、援助であり貿易でもある。したがって、一方では、グローバルな視点を必要としながらも、他方では、生産現場のローカルな視点を必要とする。そこで、授業の前半では、フェアトレードの概念や歴史、制度の構造といった基本的な知識を、国際貿易や国際協力の文脈に位置づけながら解説する。それと同時に、このようなマクロな現象が、生産現場である地域にどのような影響を与えているのか、ワークショップを通じて「現場の視点」から生産国・生産者の状況を理解する。</p> <p>また、フェアトレードは、地域の課題解決のため実戦的な手法でもある。そして、その「地域」が指すものは、生産国の現場であると同時に、消費に関わる私たちの地域社会も指す。授業の終盤には、今後、フェアトレードの実践活動(生産現場の支援、日本国内における啓発活動、NPO を支援するドナーなど)に関わる人材育成を目的として、現在進行形で起きている社会課題の解決方法を考える。このような作業を通じて、フェアトレード大学静岡文化芸術大学、フェアトレードタウン浜松市で何ができるのか、創造的に考えることを目指す。</p>			
授業の方法	授業は講義形式で行う。フェアトレードは、開発教育(先進国の市民に対して、なぜ国際協力が必要なのかを教える分野)の発展にも大きな貢献をしてきた。そこで、授業では、開発教育の分野で蓄積された「ロールプレイ」などのワークショップの手法を多く取り入れる。また、実際の課題解決を見据え、毎回必ず「グループワーク(グループディスカッション)」を取り入れる。フェアトレード大学として、今後、学生自らが市民に対してフェアトレードの普及・啓発を行う場面が増えることを想定して、フェアトレードや国際協力の「伝え方」を紹介しながら授業を進める。			
評価の方法・基準	<p>中間レポート(45%) および期末レポート(45%) および授業時のコメントペーパー(10%)の総合点で算出し、以下のように評価する。</p> <p>秀(100点～90点) 優(89点～80点) 良(79点～70点) 可(69点～60点) 不可(59点以下)</p> <p>なお、レポートの採点基準(レポートを書く上でのポイント)は、課題発表時に示す。</p>			
授業計画	第一部ーフェアトレード基礎知識編 ①イントロダクションーフェアトレードは誰の何を救う仕組みか 内容:フェアトレードとは何か、その有効射程は何かを解説する。 ②「南北格差」はどのようにして生じるのか 内容:先進国と途上国の定義を解説しつつ、両者の格差が生じる仕組みをロールプレイを通じて理解する。 ③フェアトレードの歴史①ー1940～50年代 内容:フェアトレードが誕生した背景を「寄附とフェアトレードの違い」から理解する。 ④フェアトレードの歴史②ー1960年代	ステ トキ	なし(適宜参考書を授業内で紹介する)	
		参 考 書	佐藤寛編(2011)『フェアトレードを学ぶ人のために』社会思想社 長坂寿久編(2018)『フェアトレードビジネスモデルの新たな展開 SDGs 時代に向けて』明石書店 渡辺龍也編(2018)『フェアトレードタウン:“誰も置き去りにしない”公正と共生のまちづくり』新評論	

<p>内容:ポストコロナリズムを背景に途上国の貧困が固定されていく過程をカカオを通じて理解する。</p> <p>④フェアトレードの歴史③ —1970年代 内容:社会開発という概念がどのようにフェアトレード仕組みを変えたのか児童労働を通じて理解する。</p> <p>⑤フェアトレードの歴史④ —1980年代 内容:フェアトレード認証が誕生した背景とその仕組みをコーヒーを通して理解する。</p> <p>⑥フェアトレード歴史⑤ —1990年代 内容:フェアトレードの解決課題の射程が平和構築へを拡大していくことを紛争鉱物を事例に理解する。</p> <p>⑦フェアトレードショップという文化 内容:フェアトレードショップの店主をゲストに招き日本の消費者の視点からフェアトレードを理解する。</p> <p>第二部—フェアトレードを巡る近年の状況</p> <p>⑧ビジネスを通じた国際協力の拡大 内容:MDGsを契機としてビジネスを通じた国際協力が盛んになっていくプロセスを BOP ビジネスを通じて理解する。</p> <p>⑨グローバルサウスの出現と停滞する先進国 内容:2000年代に入って起きた途上国が急成長および先進国の中間層の「没落」がいかんにして起きたのか解説する。</p> <p>⑩国内フェアトレード／南南フェアトレードの潮流 内容:⑨を受けて途上国間および途上国国内の格差を是正するため取り組みが始まっていることを事例と共に理解する。</p> <p>⑪気候変動とフェアトレード —コーヒー2050年問題と生産者からの応答 内容:フェアトレードの射程が貧困削減から環境問題へと拡大していることを事例をもとに理解する。</p> <p>⑫フェアトレードツーリズムの隆盛 内容:観光モノカルチャーとも呼べる地域において観光のフェアトレード認証が始まっていることを事例とともに理解する。</p> <p>⑬フェアトレードフィルム／フェアトレードブックの登場 内容:映像制作・出版業界の労働問題を解消するツールとしてフェアトレードが使われ始めていることを事例とともに理解する。</p> <p>⑭加速主義とフェアトレード的民主制のゆくえ 内容:商品を通じた生産者と消費者の「つながり」は加速主義の時代にどのように変わっていくかディスカッションする。</p> <p>⑮まとめと総括 —SDGs時代のフェアトレードのあり方を考える 内容:消費を通じた社会貢献の方法が多様化する今日、フェアトレードの意義は何かをディスカッションする。</p>	<p>受講上の注意事項</p>	<p>本授業は、グループディスカッションを多く取り入れます。積極的な発言・意見交換を期待しています。また、これを機会にディスカッションに対する苦手意識を克服したいという受講生の参加も歓迎します。</p>
<p>授業に関する実務経験: 私は、これまで開発途上国の農村に、約4年住み込んで研究調査を行ってきました。また、実務としては、国際協力や観光業の分野で海外と関わりを持ってきました。「現場の実践」を意識しながら、研究と実務をつなぐ講義を展開していきます。</p>		

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
火曜 1 時限	14	芸術文化政策の国際比較	伊志嶺 絵里子	
テーマ	芸術支援に関わる政策分野を中心に、日米あるいは日欧等の文化政策について時代背景等の歴史的視点を踏まえて比較検討することにより、政策目的の変遷や、政策手段の多様なあり方についての理解を深める。特に、政策分析に不可欠な、市場と政府、そして非営利経済の関係についての視点を養うとともに、各種の補助金制度、租税優遇措置、顕彰制度や官民協働等、具体的な政策手段の特徴や、法や計画策定等の意義や限界等について検討する。			
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化政策形成の背景には、その国の歴史、経済、地理、民族および文化的多様性等の様々な要因があることを理解する。 2. 政策分析に不可欠な、市場と政府、非営利経済の関係について説明できる。 3. 各国の文化政策の目的と具体的な政策手段およびその決定要因について理解し、比較できる。 4. 各国の文化政策の比較検討を通じて、日本の文化政策の課題や問題点を発見し、その対処法を討議できる。 			
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は基本的に講義形式で行う。 ・計4回、リアクションペーパー(「リアルタイムアンケート」)の提出を求める。 ・第13回と第14回は演習形式(「グループワーク」「プレゼンテーション」)で行う。 ・一部、学生との意見交換を口頭で行う場合がある(「対話型授業1」)。 ・理解度を確認するため、一部「クイズ形式」で復習を行う場合がある。 			
評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 65%【計4回課すリアクションペーパー(25%、※4回目のみ10%)、第13回と第14回のグループワーク(40% ※それぞれ20%)】 ・試験 35%(期末レポート) ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。 			
授業計画	第1回 イン트로ダクションー文化政策に関連するユネスコの動き 第2回 フランスの文化政策の基礎知識 第3回 イギリスの文化政策の基礎知識 第4回 ドイツの文化政策の基礎知識 第5回 アメリカの文化政策の基礎知識 第6回 韓国の文化政策と国家ブランディング 第7回 第2回～第6回までのまとめー新型コロナウイルス感染症の影響に伴う文化政策の変化 第8回 シンガポールの文化政策①歴史の変遷からみる特徴 第9回 シンガポールの文化政策②現状と課題 第10回 マレーシアの歴史と文化政策 第11回 タイの観光政策と芸術文化 第12回 文化政策とナショナリズム 第13回 文化政策の国際比較を通じて考える(グループワーク) 第14回 文化政策の国際比較を通じて考えるー日本の文化政策の課	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は使用しない。資料は各回の授業の2日前までにSUAC manaba で公開する。 	
	参考書	令和元年度文化庁委託事業「諸外国の文化政策等に関する比較調査研究」 https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/pdf/92178301_01.pdf 令和3年度文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う諸外国の文化政策の構造変化に関する研究」 https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/pdf/93709801_01.pdf 片山泰輔(2006)『アメリカの芸術文化政策』日本経済評論社。 藤野一夫、秋野有紀、マティアス・テーオドア・フォークト編(2017)『地域主権の国ドイツの文化政策』美学出版。 川崎賢一、伊志嶺絵里子(2020)「第10章 文化はデザインするのか、変容するのか?ーシンガポールの文化制度からの考察」『グローバル社会の変容』晃洋書房。 ほか、授業内で紹介する		

令和6年度前期

	<p>題への対処(グループワーク、プレゼンテーション) 第15回 芸術教育の国際比較(イギリス、フランス、ドイツ、アメリカ、日本) 第16回 期末試験(期末レポート・オンライン提出)</p>	<p>受講上の 注意事項</p>	<p>【授業の持参物】 ・第13回授業において、プレゼンテーション原稿を作成するため、スマートフォンまたはパソコンを持参すること。 【出席に関する事項】 ・各授業の資料は SUAC manaba にて公開する。授業に欠席した場合、SUAC manaba を確認すること。</p>
<p>授業に 関係する 実務経験</p>	<p>実務経験: 東京藝術大学アートリエゾンセンターにおいて、自治体(足立区)と連携した文化事業の企画・制作を担う(統括責任者)。</p>		

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
火曜 2 時限	15	イスラーム概論	徳増 克己
テーマ	<p>今や全世界の4分の1近くの人々に信仰されるに至った世界宗教イスラームは、その居住地域をも日増しに拡大している。グローバル化の進展により、もはやムスリム（イスラーム教徒）と没交渉ではいられなくなった。ここでは、日々の暮らしから国際関係に至るまで人間の行為が関わるすべての領域において信徒たちを律する規範となっているシャリーア（イスラーム法）への理解を深めることを中心に、この宗教独自の世界観・思考様式について初歩から順に学ぶ。また、宗派の違いをはじめとする、この宗教内部の思想的多様性を概観する。</p>		
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の世界においてイスラーム教徒が占める比重について説明できる。 ・啓示宗教の基本的な特徴について説明できる。 ・六信五行の各項目の内容とその意義について説明できる。 ・信徒にとってのフィクフ（イスラーム法学）の重要性とそのおおまかな論理構成について説明できる。 ・フィクフを支える基本的な4つの法源の内容とそれぞれの位置づけについて説明できる。 ・ウラマーやスーフィーがどのような存在であるのか説明できる。 ・スーフイズムの特徴について説明できる。 ・少数宗派がなぜ存在しているか理解し、宗派ごとの思想的な立ち位置の違いを論じられる。 ・12 イマーム派の思想的な特色をスンナ派と比較して論じることができる。 ・現実に存在するイスラームはもっともな理由があって多様であることを説明できる。 ・学習してきたイスラームにまつわる基本的な用語や概念を正しく使いこなすことができる。 		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は3回の小テスト実施の時間帯（「授業計画」を参照のこと）を除き、講義形式で行なう。途中、内容理解の一助となるような短いビデオを適宜上映する。 ・学期末に指定図書リスト中の1冊についての書評レポートの提出を求める。 		
基準 方法・評価の	<ul style="list-style-type: none"> ・3回の小テストを合計した出来:40% ・期末書評レポート:60%（書評レポートは、5月頃配布するイスラームに関わる指定図書リスト中の1冊を各自が選んで書く形になる。） 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① ガイダンス／現代世界におけるムスリム人口の位置／「イスラーム」の語義 ② 六信(1): 唯一神・天使たち・預言者(使徒)たち・諸啓典 ③ 六信(2): 来世・予定／五行(1): 信仰告白・礼拝 ④ 五行(2): 喜捨・断食・巡礼 ⑤ 小テスト(1)／シャリーア(いわゆる「イスラーム法」)とフィクフ(イスラーム法学) ⑥ 小テスト(1)の解説／フィクフのウスール(イスラーム法学の「法源」)とは？ ⑦ フィクフのウスール: 4つの法源 ⑧ ウラマー(イスラーム知識人)の担う役割と養成のしくみ 	テキスト	<p>教室では不使用。説明を聞き選んで一冊は読むべし(レポート対象図書に含まれる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イスラームとは何か/小杉泰著/1994年/講談社/税込 1100円/ISBN9784061492103 ・イスラームのとらえ方/東長靖著/1996年/山川出版社/税込 801円/ISBN9784634341500 ・イスラーム教入門/中村廣治郎著/1998年/岩波書店/税込 924円/ISBN 9784004305385

	<p>⑨ スーフィズム(いわゆる「イスラーム神秘主義」)出現の背景と意義</p> <p>⑩ スーフィーと聖者信仰/ウラマーとスーフィーの立ち位置の違い</p> <p>⑪ 小テスト(2)/スンナ派以外のイスラームの諸宗派</p> <p>⑫ 小テスト(2)の解説/諸宗派分岐の歴史的背景/ハワーリジュ派</p> <p>⑬ シーア諸派(1):ザイド派とイスマーイール派</p> <p>⑭ シーア諸派(2):12 イマーム派成立の経緯と主要な歴代イマームの事跡</p> <p>⑮ シーア諸派(3):12 イマーム派法学および政治理論の特徴と展開</p> <p>⑯ 小テスト(3)とその解説</p>	<p>ある程度学んでから振り返って整理する際に役立つもの。(レポート対象図書リストに含まれる)</p> <p>①イスラム 思想と歴史 新装版/中村廣治郎著/2012年/東京大学出版会/税込 2750円/ISBN9784130130288</p> <p>②イスラーム法とは何か? 増補新版/中田考著/2021年/作品社/税込 2970円/ISBN9784861828423</p> <p>③イスラームの深層「遍在する神」とは何か/鎌田繁著/2015年/NHK出版/税込 1540円/ISBN 9784140912331</p> <p>④イスラーム教「異端」と「正統」の思想史/菊地達也著/2009年/講談社/税込 1705円(Kindle版)</p> <p>* ①は、スンナ派を中心に古典的政治理論まで視野に入れた一昔前の定評ある概説書の新装版。②は、自身がイスラーム法学者でもある著者が「イスラーム法」の特質を平明かつ明快に説明するもの。③は、主としてスーフィズムの思想的側面を扱ったもの。④は、イスラームの諸宗派が分岐した経緯とそれぞれの思想的立場の相違を扱ったもの。なお、④は現在、新刊書としては電子書籍でしか入手できない。</p>
<p>実務 関係 授業 経験 する に</p>		<p>・すでに説明した事柄はすっかり身につけているという前提で講義を行なうので、毎週念入りに復習し3回の小テストに備えること。その際には、単に用語を覚えるだけでなく、背景となる脈絡をしっかりと確認すること。</p> <p>・書評課題の対象となる指定図書を授業と並行して読み進めておくこと。</p> <p>・2年次配当の「近現代の中東A」「同B」「中東現代史」の3科目はこの科目で説明済みの事柄はおおよそ身につけているという前提で開講される。</p> <p>・欠席3回までは減点なく許容するが、4回目と5回目の欠席については成績評価時にそれぞれマイナス5点とし、欠席回数が5回を超えた者は単位認定をせず0点とする。</p> <p>・インフルエンザやコロナ・ウイルスによる感染に伴う出校停止の場合は、書類が提出されれば、欠席扱いとはしない。</p> <p>・就職活動による欠席については、必要書類が提出された場合に限り、2回ごとに1回分の欠席回数としてカウントする。</p> <p>・欠席時の授業内容については、電子メール等で教員に問い合わせること。</p>

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
火曜 2 時限	16	地域社会と芸術文化	伊志嶺 絵里子	
テーマ	まちづくり、観光振興、産業振興、住民間コミュニケーション促進、地域アイデンティティの形成など、芸術文化は地域社会の発展と密接な関わりを持っている。我が国あるいは諸外国における具体的な事例を参照しつつ、地域社会における芸術文化の役割について幅広く学ぶ。これらを通じ、地域社会における文化施設や実演芸術団体等のアートマネジメントのあり方や、地方公共団体等における芸術文化政策のあり方を考えるための視野を広げる。			
授業の目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の文化政策において芸術文化と地域社会はどのように位置づけられているか説明できる 2. 様々な事例を通して、地域社会における芸術文化の意義・役割について論じられる。 3. 芸術文化を地域社会に接続させる上での課題や問題点を調べられる。 4. 地域社会の実態に即したアートマネジメント及び文化政策のあり方について討議できる。 			
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は基本的に講義形式で行う。 ・計4回、リアクションペーパー(「リアルタイムアンケート」)の提出を求める。 ・第14回と第15回は演習形式(「グループワーク」「プレゼンテーション」)で行う。 ・一部、学生との意見交換を口頭で行う場合がある(「対話型授業1」)。 ・理解度を確認するため、一部「クイズ形式」で復習を行う場合がある。 			
方法・評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・平常点 65%【計4回課すリアクションペーパー(25%、※4回目のみ10%)、第14回と第15回のグループワーク(40% ※それぞれ20%)】 ・試験 35%(期末レポート) <p>※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。</p>			
授業計画	第1回 インTRODクシヨンー芸術文化の価値とは何か？ 第2回 文化政策における地域社会と芸術文化の位置づけ 第3回 公立文化施設と地域社会(事例:いわき芸術文化交流館アリオス) 第4回 芸術文化と教育・コミュニティ 第5回 芸術文化と福祉(児童養護施設、高齢者施設での取り組み) 第6回 芸術文化と健康・well-being 第7回 芸術文化による災害復興 第8回 伝統文化と地域社会 第9回 アートプロジェクトと地域社会(事例:「越後妻有大地の芸術祭」「BEPPU PROJECT」など) 第10回 音楽祭(アートプロジェクト)・音楽コンクールと地域社会(事例:「富士山河口湖音楽祭」「音まち千住の縁」「ビバホールチェロコンクール」など) 第11回 演劇祭とまちづくり(事例:「杜の都演劇祭」「豊岡演劇祭」など)	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は使用しない。資料は各回の授業の2日前までにSUAC manaba で公開する。 	
	参考書	藤野一夫、文化・芸術を活かしたまちづくり研究会(2020)『基礎自治体の文化政策』水曜社。 松本茂章(2020)『文化で地域をデザインするー社会の課題と文化をつなぐ現場から』学芸出版社。 古賀弥生(2011)『芸術文化がまちをつくるII』九州大学出版会。 いわき芸術文化交流館アリオス(2012)『文化からの復興ー市民と震災といわきアリオスと』水曜社 ほか、授業内で紹介する。		

令和6年度前期

	<p>第12回 芸術文化と治安(事例:豊島区の文化政策) 第13回 創造都市の取り組み:金沢市(クリエイティブ・ツーリズム) 第14回 地域社会(課題)と接続する文化事業を企画する(グループワーク) 第15回 地域社会(課題)と接続する文化事業を企画する(グループワーク、プレゼンテーション) 第16回 期末試験(期末レポート・オンライン提出)</p>	<p>受講事項の 注意</p>	<p>【授業の持参物】 ・第14回授業において、プレゼンテーション原稿を作成するため、スマートフォンまたはパソコンを持参すること。 【出席に関する事項】 ・各授業の資料はSUAC manabaにて公開する。授業に欠席した場合、SUAC manabaを確認すること。</p>
<p>実務経験 関係する 授業に</p>	<p>【実務経験】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リトルクラシック in Kawasaki の音楽ワークショップ・ファシリテーター(高齢者福祉施設、児童養護施設等) ・「草津夏期国際音楽アカデミー&フェスティバル」の運営スタッフ ・いわき芸術文化交流館アリオス等のコミュニティ・プログラムの評価事業に携わる ・足立区ギャラクシティ運営評価委員 		

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
火曜 2 時限	17	文化と芸術B	梅田 英春
テーマ	この科目群では、文化、芸術の多様な展開について、それぞれの領域において提示される諸現象の現状や特色などを理解するとともに、それらを学問的に取り扱う方法や、それによって明らかになることがらについて考える。文化、芸術についての学問的理解の上で欠かせない学問領域について、歴史的展開や最新の状況を鑑みつつこの科目群で取り扱うこととする。それぞれのジャンルによってA～Dで展開する。美術、音楽、演劇等のジャンルとともに、社会や時代の要請に応じたジャンルも扱う。		
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文化相対主義的な立場、反文化相対主義的な立場の両面から諸民族の音楽文化を捉え、特にアジア地域の音楽の事例を通して、「文化の多様性」、「伝統」、「文化の真正性」、「グローバル化する文化(グローバル化する文化)」などの文化の捉え方について理解する。 ・音楽文化に関わらず、文化を学ぶために必要な視点を身け、美術、演劇等の研究においても応用することができる。 		
授業の方法	授業は講義形式で行う。 本授業は事前学習型授業の形態をとる。学生は授業前に manaba のコンテンツにアップした毎回の講義用レジュメと添付された映像資料をすべて閲覧し、必ず授業外事前学習を行う。その後講義を聴講し、終了後は manaba のコメント機能を使用して、質問、コメントを送信する。なお教員はこれらに対し、適切な返信を行う。		
評価の方法・基準	各トピック毎に提出を課すレポート(3回 各 20%) 期末レポート(30%) 授業への積極的参加度(10%)、 なお、成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。		
授業計画	第1回:イントロダクション～音楽研究における MUSICS の概念	テキスト	テキストは使用せず、資料等は SUAC manaba や印刷物で配布する。
	第2回:日本の音楽教育		
	第3回:民族とは何か?～「民族音楽」という不可解な言葉	参考書	授業時に適宜指示する。
	第4回:文化絶対主義と音楽研究	注意講事項の	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ではさまざまな音源や映像をすべて紹介することができないため予習・復習において授業内で紹介した youtube 等で世界音楽について積極的に学んでほしい。なお youtube 等の URL については、SUAC manaba を通して各自に送信する。 ・授業内でさまざまな諸民族の楽器について紹介するので、積極的に浜松市楽器博物館を訪問して実物の楽器を見てほしい。 ・原則的には授業への出席が前提となる。正当な理由がなく 5 回以上欠席の場合は成績評価しない。
	第5回:文化相対主義と諸民族の音楽研究		
	第6回:文化相対主義批判と伝統主義		
	第7回:「伝統」とは何か?① 伝統の創造の考え方		
	第8回:「伝統」とは何か?② 音楽の具体的事例		
	第9回:音楽とアイデンティティとの関係(スコットランドとバグパイプの関係)		
	第10回:伝統から現代へ(韓国の伝統音楽からポピュラー音楽までの展開)		
	第11回:伝統から現代へ(インドの伝統音楽からポピュラー音楽までの展開)		
	第12回:伝統から現代へ(インドネシアの伝統音楽からポピュラー音楽までの展開)		
	第13回:クラシック音楽にみる諸民族の音楽		
	第14回:オリエンタリズムの表象としての音楽作品		
	第15回:文化政策における「世界音楽」からの視点の重要性		
関係する実務経験	<p>内容と回数は必ずしも一致しないことがある。</p> <p>教員は世界音楽のプレーヤーでもあり、30 年以上にわたり、研究とは別に、国内外の舞台でバリ島のガムラン演奏、語り手、また現代音楽の初演などに参加している。そうした実践経験も活かしつつ、授業を進めていく。</p>		

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
火曜 4 時限	18	中国の文化と社会	崔 学松
テーマ	本講義では、「文化」と「社会」からアプローチすることで、多角的な視点から重層的に中国を理解することを目標とする。中国に関する様々な最新情報に触れながら、格差と人的移動、政治の民主化と共生社会の実現など、毎回異なるテーマに時間的縦軸と空間的横軸を併用して取り組み、多様な中国の現実を捉える方法を学ぶとともに、具体的なデータや映像を用いて中国の文化と社会を理解する技術や理論を習得する。講義では、多民族多文化社会と国際化社会を生きるための様々な現実的社会問題に目を向けさせることを可能な限り心がける。		
授業の目標	本講義では、「文化」と「社会」からアプローチすることで、多角的な視点から重層的に中国を理解することを目標とする。中国に関するさまざまな最新情報に触れながら、格差と人的移動、政治の民主化と共生社会の実現など、毎回異なるテーマに時間的縦軸と空間的横軸を併用して取り組み、多様な中国の現実を捉える方法を学ぶとともに、具体的なデータや映像を用いて中国の文化と社会を理解する技術や理論を習得する。講義では、多民族多文化社会と国際化社会を生きるための様々な現実的社会問題に目を向けさせることを可能な限り心がける。		
授業の方法	講義と映像を通じて分析し、学生の中国に対する認識を深め、課題の解決に自主的に取り組むよう促す。第1回目は、対面で実施します。		
評価の基準	期末プレゼンまたはレポートが50%、平常点、出席と出席態度、感想文などによる評価が50%		
授業計画	1 オリエンテーション 第I部 経済・社会セッション 2 新興産業:次世代通信技術・再生可能エネルギー・スタートアップ企業等 3 格差社会 4 華僑華人ネットワーク 5 経済成長は民主化をもたらすか:香港・台湾 第II部 政治・文化セッション 6 統合ツールとしての中国共産党 7 多民族統治の困難 8 戸籍という身分制度:大量移動時代の「パスポート」 9 学歴社会の誕生 10 消費され輸出される文化:グローバル化とローカル化のはざままで 第III部 国際関係セッション 11 中国人は世界を目指す? 12 自強という見果てぬ夢 13 米中二強時代の誕生? 13 友好から敵対へ?:不定型化する日中関係を見据えて 14 共生社会とは? 15 まとめ	ステ トキ	
		参考書	『THE CHINA QUESTIONS』(Harvard, 2018) 『チャイナスタンダード:世界を席卷する中国式』(朝日新聞出版, 2019) 『日中韓の働き方の経済学分析:日本を持続するために中国・韓国から学ぶこと』(勁草書房, 2019) 『中国、香港、台湾におけるリベラリズムの系譜』(有志社, 2018) 『中国ドキュメンタリー映画論』(平凡社, 2019) 『はじめて出会う中国』(有斐閣, 2013) 『現代中国の消費文化:ブランディング・広告・メディア』(岩波書店, 2011) 『中国の広告とインターネットの実態』(中央大学出版部, 2010)
		注意 事項	講義が中心となるので出席を重視する。授業で取り上げられた問題について思索し、自分なりの意見を持つように心がけ、指定された文献・資料を読み理解を深めてほしい。講義の内容について、授業時に積極的に質問することが望まれる。
	授業に関する実務経験:		

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
水曜1時限	19	日本伝統建築	新妻 淳子
テーマ	日本の伝統建築は、古代、中世、近世、近代とその時代の歴史や文化を背景に様式を確立し、継承してきた。その建築様式と技術の歴史、さらに建築を構成する木材や石材、漆、鉄、紙等の材料や、建築を造り上げてきた鑿、鉋、鋸等の道具について幅広く学ぶ。また文化財政策の歴史と現状、伝統建築の保存・修理・活用に関しても理解を深め、静岡県文化遺産ともいえる伝統建築のあり方も考える。		
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本伝統建築の歴史と技術を学習し、その特質を説明できるようになる。 ・文化財政策について学ぶ。 ・日本伝統建築の特徴を活かした保存・活用を意識し、新たな創造に繋げることも考えられるようになる。 		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は原則として講義形式で行う。 ・第13回は、日本建築の材料・技術を理解するために、道具・サンプル等に触れる機会とする。 		
評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・各回のレポート(1～14回)80%、最終レポート(15回)10%、レポートの総合評価(15回分)10%。 ・成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠。 		
授業計画	第1回	イントロダクション、日本伝統建築とは	テキスト 太田博太郎・藤井恵介ほか『増補新装カラー版 日本建築様式史』美術出版社、2010年 参考書 近藤豊『古建築の細部意匠』大河出版、1981年 日本建築学会編『日本建築史図集』彰国社、1980年 中村達太郎『[新訂]日本建築辞彙』中央公論美術出版、2011年 注意事項 ・レポートは各回作成し15回分提出すること。 ・授業の欠席が5回を超えた場合、成績評価の対象としない。 ・授業に欠席した回のレポートも必ず提出すること。 ・授業に欠席した場合は、担当教員へ問い合わせること。
	第2回	先史の建築—縄文・弥生・古墳	
	第3回	古代の寺院建築	
	第4回	古代の神社建築	
	第5回	古代の宮殿建築と住宅建築	
	第6回	中世の寺院建築	
	第7回	中世・近世の住宅建築	
	第8回	近世の城郭建築	
	第9回	近世の神社建築・寺院建築	
	第10回	中世・近世の民家建築	
	第11回	近世・近代の数寄屋建築	
	第12回	近代建築、日本建築の意匠・材料	
	第13回	日本建築の材料・技術	
	第14回	文化財政策と保存・活用	
	第15回	日本伝統建築と未来	
実務経験 関係する 授業に	日本伝統建築および文化財建造物保存修理工事の調査・報告書作成。		

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
水曜1時限	20	日本史学A	西田 かほる	
テーマ	日本の中世から近世を対象として、その社会のあり様と人々の存在形態について考察する。特に身分制社会の成立過程と、その中での人々の社会的役割や生活・思想についてみていく。武士・公家・百姓・町人・被差別民というような社会集団からだけでなく、女性や子ども・老人といった年齢や性別、あるいは身分を超えたネットワークのあり様など、多様な視点から分析を試みる。そのことにより、今日の日本社会のあり様についても考える力を養う。			
授業の目標	身分制社会における人々の存在形態(社会的位置づけ・役割・技能など)を詳細に検討することによって、日本の社会や文化、芸能・学問などについて考える基盤を養うことができる。			
授業の方法	講義形式で行う。			
評価の方法・基準	課題への取り組み(50%)と、レポート(50%)により判断する。			
授業計画	① 江戸時代の社会の仕組み ② 百姓とは ③ 百姓の生活 ④ 天皇 ⑤ 公家 ⑥ 僧侶 ⑦ 神職 ⑧ 被差別民の成立 ⑨ 被差別民と社会 ⑩ 芸能的宗教者の成立 ⑪ 芸能的宗教者と社会 ⑫ 医者 ⑬ 職人 ⑭ 女性 ⑮ 武士	テキスト	特になし。	
		参考書	授業ごとに提示する。	
		注意事項	欠席が5回以上になった場合、成績評価の対象としない。	
実務経験 関係する 授業に				

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
水曜1時限	21	韓国社会文化論	林 在圭
テーマ	<p>古来より日本と韓国(朝鮮半島)の関係は深く、韓国の文化と社会を知ることにより、自文化の新たな面(価値や魅力など)に気づくことができる。そのため、韓国の文化と社会を知ることが、何よりも自分自身(日本)について学ぶことであり、世界を知ることにつながる。韓国の社会的・文化的特質に迫るために、様々な観点から韓国の伝統文化と生活文化を体系的に捉え、韓国社会の基層構造について学び考察する。そして、韓国社会の文化的特質について理解を深める。</p>		
授業の目標	<p>韓国は地理的にも歴史的にも文化的にも日本と最も密接な関係にある。そのため、韓国の文化を知ることが、日本文化をより客観的に深く理解することができる。この授業では、韓国の生活文化やものの考え方を学び、韓国文化を知り理解することをめざす。</p> <p>この授業では、韓国の文化を中心に、歴史・社会についても学ぶ。韓国の文化は中国の影響を受けつつ、独自の文化と歴史を形成し、さらには日本へも大きな影響を与えてきた。韓国の文化的知識を身につけることができる。</p>		
授業の方法	<p>授業は講義形式で行う。授業の講義ノート(資料)をSUAC manabaに掲載する。</p> <p>授業はパワーポイントを利用して講義を中心に行うが、また質問に対する回答という形をとりながら、韓国人の生活に密着した韓国文化の理解に迫るために、モノグラフや映像資料を中心に、韓国社会の基礎的構造について学び、韓国社会の文化的特質について理解を深める。</p>		
評価の基準	<p>評価は、授業への積極度・参加度 45%、中間レポート 15%、期末レポート 40%による総合的評価とする。</p>		
授業計画	①ガイダンス・概要 ②韓国人の人間関係 ③宗族と門中の仕組み ④族譜 ⑤教育制度と教育熱 ⑥政治の仕組み ⑦兵役と安全保障 ⑧財閥の仕組みと市場 ⑨地域社会と地域感情 ⑩日韓文化交流史 ⑪巫俗と巫堂 ⑫民俗信仰 ⑬仮面劇 ⑭豊漁祭 ⑮機池市大綱引き・まとめ	テキスト	テキストはとくにない。SUAC manaba に講義ノートの PDF 資料を配付する。
		参考書	参考文献等に関しては必要に応じて授業中に紹介する。
		注意講事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日本文化との異同について考える。 ・manaba の講義ノートの閲覧を通じて確認学習を行う。
関係する実務経験	<p>授業に</p>		

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
水曜1時限	22	西欧近現代史	永井 敦子
テーマ	ルネサンス以降の西ヨーロッパの歴史について、日常生活に直結する物質的な条件や経済状況と、それをとりまく経済思想・世界観から検討し、近代文明を成立させた西ヨーロッパの特殊性について考察する。その際に歴史学研究としては、研究対象となる時代に書かれた文献を原文または翻訳で読み、それを手がかりに過去についての情報を獲得し、もう一方では既存の研究成果を参照しながら、それが書かれた時代背景を再構築する方法を試みる。		
授業の目標	a: 事実に基づいた歴史の記述方法を理解する。 b: 西欧のいわゆる産業革命をはさんだ経済状況と日常生活の変化について説明できるようになる。 c: 史料を参照して事実を探究する歴史の研究方法を理解する。 d: 提示される史料と参考文献を自分で調べた成果を、歴史として記述できる。 e: 自分なりに史料と参考文献を読解し、独自の視点・論点に基づいた歴史記述ができる。		
授業の方法	授業は講義形式で行う。 SUAC manaba を通じて資料を配布し、また課題の提出を求める。 授業期間中の課題として「調査学習」の成果を問う小レポート7本を課す。		
評価の方法・基準	・最終レポート 30%。 ・平常点 70%(中途課題の小レポート7本各10%)。 秀(90~100%)=すべての点を達成したと認められる場合。(ただし、用語法や事実確認に瑕疵が認められる場合には減点される。以下同じ。) 優(80~89%)=a~dを達成したと認められる場合。 良(70~79%)=a~c、またはaとbとdを達成したと認められる場合。 可(60~69%)=aとbを達成したと認められる場合。 不可(0~59%)=提出物の記述方法または研究方法に重大な瑕疵があり、aまたはbを達成したと認められない場合。		
授業計画	第1回: I 経済的旧体制(1)ルネサンスの日常生活	ステキ	教科書は使用しない。 授業中に使用する文献については、1週間前までに manaba にアップする。
	第2回: I 経済的旧体制(2)農村共同体		参考書
	第3回: I 経済的旧体制(3)同業組合	注意講事上の	
第4回: I 経済的旧体制(4)遠隔地商業			
第5回: I 経済的旧体制(5)重商主義			
第6回: I 経済的旧体制(6)国家財政と経済			
第7回: II 産業革命(1)農業革命			
第8回: II 産業革命(2)農村工業			
第9回: II 産業革命(3)市場の拡大と自由化			
第10回: II 産業革命(4)機械化と技術革新			
第11回: III 近代以後(1)階級の再編			
第12回: III 近代以後(2)消費と流行			
第13回: III 近代以後(3)帝国主義			
第14回: III 近代以後(4)大衆消費社会			
第15回: III 近代以後(5)ポストモダン			
授業に関する実務経験:			

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
水曜 1 時限	23	地域計画論	藤井 康幸
テーマ	日本の国土・地域・都市の行政施策としての「計画」の系譜をたどり、環境、自然、歴史・文化などの今日的課題に対応した計画論の方向性についても概説する。計画の圏域とジャンルは多種多様であり、様々な計画の考え方を理解する。特に、都市規模や農山村など地理的な立地条件の違いや、歴史的経緯などを踏まえた計画を概説し、そこで果たしてきた計画の意味合い、主体のあり方、可能性と解決すべき事項などについて、具体的な事例を取り上げながら考える。		
授業の目標	都市・地域を取り巻く今日の課題を理解する。 計画の制度と技法を学ぶ。 人間社会の諸課題の集積する場であると同時に、それらの課題解決の場であるべき都市について考察する。		
授業の方法	対面講義形式とする。 2 学科(文化政策学科、デザイン学科)によるユニークな科目であり、学科間の交流を趣旨とする場を設ける。		
評価の方法・基準	成績評価は本学の成績評価基準に拠ります。 中間レポート(2,000 字、複数課題からの選択制)30%、都市計画ドリル(2 回)12%、期末試験 48%、授業コメント・授業貢献 10%の評価割合とします。		
授業計画	1 講 イン트로ダクション	ステキ	特に指定しない。教材を学習支援システムに随時アップする。
	2 講 歴史上のプラン	参考	特に指定しない。教材を学習支援システムに随時アップする。
	3 講 都市・地域計画の系譜		
4 講 都市計画制度の概観	注意 事項 の 受 講 上 項 の	特に指定しない。教材を学習支援システムに随時アップする。 受講上の注意事項 履修を希望する者は講義第 1 回に出席すること。 科目名にある地域について、「都市・地域」と読み替えてほしい。 文化政策学部科目である「都市経営論」とのセット科目であり、文化政策学部の他の学科からの履修を歓迎する。また、デザイン学科の一級建築士試験学校課程指定科目であり、都市計画法や建築基準法に依拠する部分はあるものの、都市・地域のデザインを幅広く扱い、デザイン学科の各分野からの履修も十分に可能である。 地方公共団体の計画、施策は、国のスキームに沿う場合が多く、国のスキームの有効性、地方公共団体の自主性といった点からクリティカルにみていくこと。 出席リーダー読み込みと授業コメントをもって出席とします。無断欠席は減点します。事前連絡のなされた体調不良、教員が事由を認める欠席については減点しません。	
5 講 マスタープラン			
6 講 地域公共交通・モビリティ			
7 講 都市構造の再編—立地適正化計画			
8 講 中心市街地活性化			
9 講 エリアマネジメント			
10 講 人のための都市空間			
11 講 都市構造の再編—15(20)圏域			
12 講 都市とエネルギー消費			
13 講 景観問題、景観づくり			
14 講 都市の保全			
15 講 2 学科意見交換、科目総括			
試験週 期末試験			
実務経験 関係する 授業に	担当教員は前職において、総合建設会社の開発計画プランナー、民間シンクタンクのコンサルタントとして、都市・地域開発の実務と都市・地域政策立案の支援を行った経験を有する。また、委員等として、地元自治体の都市計画・まちづくり行政に携わっている。		

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
水曜1時限	24	現代社会と芸術文化	南田 明美	
テーマ	医療や福祉、更生や教育の手段としての活用や、様々なマイノリティに関する社会包摂の手段として注目されるなど、芸術文化は現代社会における様々な問題と密接に関わるようになってきている。情報化、少子高齢化、国際化をはじめとした現代社会における様々な環境変化と芸術文化の関係について、国内外の様々な事例を通じて多面的な視点から学ぶことにより、現代社会におけるアートマネジメントや文化政策のあり方を考えるための視野を広げる。			
授業の目標	グローバルな新自由主義が生み出した社会問題に対して、どのような芸術活動や「場」を創出していくのか。芸術文化活動が社会的排除に遭った人々の「声」を挙げていくことに、どのように関わっているのか。芸術文化の力とは何なのか。国内外の様々な事例を通して、「芸術文化と社会をどのようにつなぐか」について考察し、オルタナティブな方法を提案できるようになる。			
授業の方法	本授業は、講義形式で行う。ただし、議論回では演習形式を取る。 第1週目の授業は対面で行う。 (1) 予習として、教員が指定した文献を読んでくること。 (2) 講義回は、担当教員が、できる限りビジュアルを用いながら、理論と事例解説を行う。 一方、議論の回(⑥、⑩、⑮)では、双方向性の授業を展開する。それまでの授業の内容と課題図書を解題し、提出します。その解題に基づき議論することで、新たな視座を獲得していく。(「事前学習型授業」、「対話型授業」、「グループワーク」、「プレゼンテーション」)			
評価の方法・基準	コメントシート、議論への積極的参加 30% (2点×15回) 中間レポート(1200字程度の解題×3回) 30%(各レポート10点満点ずつ) 期末レポート(企画書を書く) 40%(40点満点) * 期末レポートの企画書は、グループであるか、個人であるかは、参加者の様子を見て決める([PBL])。 (レポート評価基準) ★5段階評価で採点 B(2)、B+(4)、A-(6)、A(8)、A+(10) * 「学芸の基礎」を振り返りましょう！各課題論文を理解したうえで、執筆に取り組みましょう。 B(2):支離滅裂			
授業計画	【基礎論】 ①オリエンテーション:本授業における「芸術文化」「アート」の定義 ②現代社会の諸相:リキッド・モダニティ/リスク社会とは何か？ ③ 文化政策と社会包摂の国際的動向:マイノリティとは誰か？ ④ コミュニティ・アート①:社会運動としての歴史を探る ⑤ コミュニティ・アート②:新自由主義社会におけるケアの倫理との接合点とは？ ⑥ 議論①:基礎論の理解を深める 【各論:ゲストの都合により変わることがある。初回に提示する】 ⑦ 移民労働者による演劇・文学運動①:日本の事例 ⑧ 女性移民労働者による演劇・文学運動:シンガポールの事例 ⑨ 貧困とアート活動①:バンコク・スラム街で、子供たちの負の連鎖を断ち切る	テキスト	初回に紹介する。 次回、次々回分を LMS (manaba) に挙げる。(英語文献の可能性もある)	
		参考書	①アートミーツケア学会編(2021)『受容と回復のアート:魂の描く旅の風景』、生活書院。 ②船津衛, 山田真茂留, 浅川達人編著『21世紀社会とは何か:「現代社会学」入門』、恒星社厚生閣、2014。 ③ジークムント・バウマン著(森田典正訳)『リキッド・モダニティ:液状化する社会』、大月書店、2001。 ④ジョアン・C・トロント著(岡野八代訳)『ケアするのは誰か?』、	

	<p>⑩ 貧困とアート活動②:大阪のホームレスのおっちゃんたちの「声」</p> <p>⑪ 議論②:空間と時間の圧縮した世界における「場づくり」とは？</p> <p>⑫ 自己責任論と「可動性」、アートの関係性の再考①:刑務所にて</p> <p>⑬ 自己責任論と「可動性」、アートの関係性の再考②:高齢者施設と病院にて</p> <p>⑭ 障がい者アートの動向:「売れる」から創るのか？</p> <p>⑮ 議論③(総括を含む):現代社会における「芸術文化の力」とは？</p>	<p>受 講 上 項 の 注 意 事 項</p>	<p>*本授業では、社会的排除に遭遇している人々の表現＝心の声を紹介します。ネガティブなことばかりではないですが、繊細で優しい心を持つ方には精神的負担が多い授業かもしれません。授業後のリフレッシュの方法を持っておいの方がよいでしょう。</p> <p>*⑧では、女性家事労働者やセックスワーカーの「トラウマ」や表現についても扱います。本学には女子学生が多いこと、統計上 80%の女性が性被害者であることを鑑みると、精神的無理強いをしない範囲で受講してください。(ただし、これらは女性人権問題であるからこそ授業で取り扱うことをご理解頂きたいです。)</p> <p>*芸術を通して社会を変えたいと強く思う、責任感と思いやりに満ちた学生を大いに歓迎します。</p> <p>*授業前後に、課題図書を読み、400字から800字で要点を記しましょう。その要約・解題は、議論、中間レポートや期末レポートの材料となるほか、卒業論文等にも役立つでしょう。</p>
<p>授 業 に 関 係 す る 実 務 経 験</p>			

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
木曜1時限	25	日本文化論	西田 かほる	
テーマ	人々の日々の生活から生み出された事象すべてを文化と捉え、日常生活に密着した年中行事や人生儀礼、あるいは衣食住の特徴、動植物との関わりなどを文化の事例として取り上げる。かつ、文化は時間的にも空間的にも社会的にも一様ではないという観点に立ち、日本人のものの見方や行動様式が、いつ、どのように成立し、また変容していったのかについて考察する。その際、東アジアをはじめとする諸外国との比較や文化移入のあり方をみることによって、より日本文化の特徴を明らかにしていく。			
授業の目標	身近な事象がいつ、どのように成立し、また変容していったのかについて考察することにより、日本文化を考える視点を養う。			
授業の方法	授業は講義形式で行う。			
評価の方法・基準	中間レポート(50%)と期末レポート(50%)により評価する。			
授業計画	① 日本文化とは ② 時間と社会 一干支 ③ 時間と社会 一元号 ④ 年中行事 一前近代 ⑤ 年中行事 一休日 ⑥ 年中行事 一近代 ⑦ 人生儀礼 一結婚・子ども ⑧ 人生儀礼 一名前 ⑨ 動物と人間 ⑩ 植物と人間 ⑪ 東海地域の文化 一富士山の信仰 ⑫ 東海地域の文化 一富士山とナショナリズム ⑬ 浜松の歴史と文化 一信仰 ⑭ 浜松の歴史と文化 一交通 ⑮ 浜松の歴史と文化 一芸能	テキスト	特になし。	
		参考書	適宜紹介する。	
		注意講上項の	欠席が5回以上になった場合、成績評価の対象としない。	
実務経験 授業に				

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
木曜 1 時限	26	憲法	塩見 佳也	
テーマ	この授業では、憲法についての基礎知識を習得することを目的とする。憲法の内容や、日本国憲法を支える基本原理、日本国憲法成立の歴史的経緯といった憲法の総論的な概説を経て、憲法によって保障された権利を対象とする基本的人権の分野と、憲法の基本原理を実現するための国家機関の仕組みを対象とする統治機構の分野について、裁判例の検討を交えながら学んでいく。			
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 国民主権の意義及び主権国家の概念について具体的に説明することができる ② 我が国の安全保障政策と憲法との関係について、どのようなスタンスを自ら選択するにせよ、法律論の枠組にもとづき公共政策論として具体的に説明することができる ③ 裁判例のなかでの法律と憲法の関連や、公共政策に対する憲法上の政策評価枠組（違憲審査基準）とその問題点（とされる法的課題）を理解し、事例ごとに具体的に説明することができる ④ 地方公共団体の行政や公立学校のなかで憲法が不可欠の知識である理由を、具体的な事件やその裁判例、あるいは地方自治法等の「憲法付属法」との関連で、具体的に説明することができる ⑤ 行政組織・地方自治制度をはじめとする統治機構や公務員制度に関する具体的な制度や裁判例を理解することができる 			
授業の方法	<p>講義形式による</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 原則対面によるが、事情により遠隔形式（Zoom によるリアルタイム並びにその録画の配信）による場合がある。後者の場合、出席課題の提出期限を次回授業開始前までとする。 ② 課題については、公務員試験・行政書士試験程度の基本的な選択枝問題や論点別のレポート課題を課す場合があるが、原則、選択枝問題による授業内容の理解を主とする。 ③ 授業の資料は、manaba 上のコースニュースでシェアする。事前に予習が期待される裁判例については、毎回のコースニュースにて掲示する。 ④ 質問及び授業評価については、manaba にリンクしたフォームにより毎回実施する。なおこれらは成績評価には一切連動しない。 ⑤ 授業に関連する時事的なニュースや行政制度情報など具体的な情報は、manaba 上の「掲示板」にてリンクをシェアする。特に、何が起きるか予測が難しく、変化が激しく、複雑性・不確定性が増大する時代のため、少なくない情報がこの方法により共有されるだろうが、予復習に活用してほしい。 ⑥ ディスカッションや受講者による説明など双方向的要素を実現するため、respon などを用いる場合がある。 			
評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ① 公務員試験等に出題される基礎的な知識をベンチマークとして参照しつつ、上記学修到達目標記載事項①～⑤に即して、小テストや記述問題により毎回確認してゆく（60%）。これをもとに期末記述課題を実施する（40%）。 ② 記述課題としては、裁判例により蓄積された憲法解釈の枠組みを、具体的な事件のなかで適用しながら結論を導く、① 論証の手順、② 対立する関係を違憲審査基準により調整するプロセス、③ 根拠付けの説得性を中心に評価する。 ③ 成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠する。 			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> 1 回 ガイダンス 憲法と法律の相違（違憲立法審査権）・憲法改正の仕組みと「憲法保障」の構造 2 回 主権国家とは何か？・日本国憲法の成立過程と基本原理 3 回 憲法 9 条と安全保障 	テキスト	小林直三ほか編『判例で学ぶ憲法』（法律文化社）	

令和6年度前期

<p>4回 立法権と国会(国民代表とは何か?)「国会中心立法の原則」とその例外</p> <p>5回 行政権と内閣①執政:解散権・条約締結権・予算</p> <p>6回 行政権と内閣②内閣の権限と行政組織</p> <p>7回 行政権と内閣③日常的な行政活動(法規制)と経済的自由権</p> <p>8回 地方自治①基本構造</p> <p>9回 地方自治②条例制定権と地方分権</p> <p>10回 地方自治③公共施設等の財産管理の仕組と「ガバナンス」</p> <p>11回 公共政策と人権①:政教分離と住民訴訟(地方公共団体の公有地管理問題)公立学校と信教の自由の問題</p> <p>12回 公共政策と人権②:刑事裁判と司法システムにおける人権保障</p> <p>13回 公共政策と人権③:一票の格差とは?(法の下での平等と「投票価値」の平等)</p> <p>14回 公共政策と人権④:表現の自由と「公共の福祉」の調整問題の概要(詳細は「情報法学」 「人権論」で学ぶ)</p> <p>15回 公共政策と人権⑤:社会権と労働基本権、公務員の政治的活動について</p>	<p>参 考 書</p>	<p>(1) 基本書・体系書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・渡辺康行ほか『憲法Ⅰ 基本権(第2版)』『憲法Ⅱ 総論・統治』日本評論社 ・渋谷秀樹『憲法(第3版)』有斐閣 ・板垣勝彦『自治体職員のための ようこそ地方自治法(第3版)』第一法規出版 ・宇賀克也『地方自治法概説(第10版)』有斐閣 <p>(2) 判例教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長谷部恭男・石川健治ほか編『憲法判例百選①・②(第7版)』有斐閣 ・宍戸常寿・曾我部真裕ほか編『判例プラクティス憲法(第3版)』信山社 ・渋谷秀樹編『憲法判例集(第12版)』有斐閣 <p>(3) 注釈書</p> <ul style="list-style-type: none"> 木下智史・只野雅人編『新・コンメンタール憲法(第2版)』日本評論社 <p>その他、受講者の関心に応じて適宜授業紹介します。</p>
---	----------------------	--

		<p>(1)履修条件 ①この授業では統治システムと人権の基本的な原理について、公共政策に対する司法審査を通じた政策評価という観点を中心に解説します。人権をめぐる歴史・法思想・具体的事件・憲法理論などについては、「人権論」(後期開講科目)を併せて受講してください。プライバシー権や個人情報保護法制、情報公開関連法制、AI がうみだしうる人権に対する諸問題については「情報法学」(後期開講科目)を受講してください。 ②行政法のうち地方自治に関する内容はこの授業で扱います。</p> <p>(2)持ち物等 ①テキストにより裁判例や制度の説明を行います ②資料の配付や関連する記事・データなどの情報共有はすべて、Manaba で行います。パソコンを持参ください。法律の条文などはManabaで配布するのでとくに六法を用意する必要はありません。</p> <p>(3)出席・課題について ①出席回数を欠格の条件とはしません。出席は、課題並びにコメント(Form)の提出を主たる方法とします。 ②授業では図解を徹底することで直感的に理解できるよう工夫しますが、公務員試験等の受験をする方は、わかつたつもりにならないよう過去問演習などに取り組んでください。高校までの復習も行いますが、普通の人々のさまざまな憲法観と、法律学の観点からの憲法理論の相違については戸惑うかも知れませんが、どのような憲法観をとるにせよ、主権者として、法律学的観点をふまえた議論ができるようになって欲しいと思います。</p> <p>(3)その他 私語は授業および他者の受講の妨げになるため禁止しますが、質問についてはFormの他、口頭でも適宜受け付けます。</p>
<p>実務経験 授業に 関係する</p>		<p>受講事項の 注意</p>

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
木曜1時限	27	日本語文法 I	原澤 伊都夫	
テーマ	日本語文法を新たな視点から捉え直すことが狙いである。日本語を外国語の一つとして捉え、日本語を内省する力を身につけながら、日本語文法の仕組みと体系を学んでいく。また、日本語の母語話者だけでなく、非母国語話者に対しても、日本語の規則を説明する力を養っていく。非母国語話者の立場に立ち、想像力を働かせることで、どんな状況にも対応できるような実践的な文法指導力を獲得することが可能となる。教科書に載っていることをそのまま暗記するのではなく、自ら考えたり、グループディスカッションを行ったりして、体験的に学んでいく。			
授業の目標	日本語教育に必要な基礎的な文法知識を身につけます。それぞれの学生がどんな状況にも対応できるような実践的な文法力を獲得し、文法全体の体系を理解することを目指します。			
授業の方法	①授業は参加型学習スタイル(「グループワーク」)で行います。 ②教科書の内容をパワーポイントを使って説明しながら、授業を進めます。 ③随時問題をグループで話し合いながら、考えます。 ④お互いの意見を尊重しあい、助け合いながらグループ活動を行い、実践的な文法知識を養います。			
評価の方法・基準	①確認クイズ(40%)と学期末テスト(50%)と授業参加度(10%)で、評価します。 ②評価基準は以下の通りです。 秀(90点～)授業目標を完全に達成しました。 優(80点～89点)授業目標を概ね達成しました。 良(70点～79点)授業目標を一部達成できないところがありますが、理解はできました。 可(60点～69点)授業目標を達成できませんでしたが、理解は進みました。 不可(59点以下)授業目標を達成できませんでした。理解も足りませんでした。 ③出席が全授業時間の三分の二に満たない受講者は成績評価の対象となりません。			
授業計画	1. 特別編「品詞分類」① 動詞 2. 特別編「品詞分類」② 形容詞、形容動詞、名詞 3. 特別編「品詞分類」③ 副詞、連体詞、接続詞、感動詞 4. 特別編「品詞分類」④ 助詞、助動詞 5. 特別編「品詞分類」⑤まとめとコラム9「学校文法と日本語文法」 6. 第1章「日本語文の構造」① その1「基本文型」		テキスト	原沢伊都夫(2010)『考えて、解いて、学ぶ 日本語教育の文法』スリーエーネットワーク ¥1,600 + 税 ISBN978-4-88319-542-8
			参考書	授業時に、必要に応じて適宜紹介します。

令和6年度前期

	<p>7. 第1章「日本語文の構造」② その2「格助詞」 8. 第1章「日本語の構造」③ まとめとコラム1「場所と時を表す格助詞の用法」 9. 第2章「主題化」① その1「格成分の主題化」 10. 第2章「主題化」② その2「格成分以外の主題化」 11. 第2章「主題化」③ まとめとコラム2「『～は～が』構文」 12. 第3章「自動詞と他動詞」① その1「自他の区別」 13. 第3章「自動詞と他動詞」② その2「自他の対応による分類」 14. 第3章「自動詞と他動詞」③ まとめとコラム3「主語廃止論」 15. 全体のまとめ 16. 定期試験</p>	<p>注 受 意 講 事 上 項 の</p>	<p>日本語文法は学校で教えられる文法(学校文法)とは異なるので、注意してください。この講義では日本語教育に必要な知識と実践力をつけることを目指します。</p>
<p>実 務 経 験 に 関 係 す る 授 業</p>	<p>日本語教育歴:30年 日本語教師養成における文法教育歴:24年 日本語教育に関する著書(単著):6冊</p>		

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
木曜 2 時限	28	イギリス文化論	美濃部 京子	
テーマ	イギリスは正式にはグレートブリテンおよび北アイルランド連合王国と呼ばれるように、イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランドの各地域がそれぞれ独自の文化を持っている。また、現在は表面的にはキリスト教文化であるが、その深層を見ると、古くからのケルトやゲルマンなど異教の文化の影響を無視することができない。この授業では、そうした各地域や古くからの伝統に目を配りつつ、現代文化に生きる伝承文化について講義する。			
授業の目標	英語の文献を読んでいると、伝承の物語の登場人物やことばに出会うことがよくあるが、そうしたものは、英語話者であればだれでも幼いころから知らないうちに耳にし、知っているものである。しかし、われわれ英語を外国語として学ぶ者にとっては、自分から調べて知識として身につけなければ理解できないものも多い。そうした物語の多くは古くから人々の間で口承で伝えられてきた口承文芸である。この授業では、そうしたイギリスの口承文学に触れるとともに、それを研究する際の様々な問題について論じる。			
授業の方法	授業では、イギリスの口承文芸を実際に聞いたり、読んだりするとともに、パワーポイントなどを用いて諸問題について概説する。口承文芸はもともと口伝えで伝えられてきたものなので、できるだけ音声資料を用いるほか、可能なものは映像なども通して、イギリスの背景文化を肌で感じられるようにしたい。			
方法・評価の基準	出席点(毎回の manaba の「アンケート」によるコメントを含む) 50 点 試験 50 点			
授業計画	第1回 口承文芸とは イギリスの口承文芸のジャンル 第2回 "fairy tale"という用語について 第3回 昔話の語りの特徴 第4回 バラッドとその特徴 第5回 "cante fable"とは何か 第6回 オーピー夫妻の業績 第7回 マザーグースとは何か 第8回 マザーグースは残酷か 第9回 英語のなぞなぞ	テキスト	資料は基本的には manaba にアップします。	
	第10回 イギリスの形式譚(1) 形式譚とは何か 第11回 イギリスの形式譚(2) 形式譚あれこれ 第12回 イギリスのシンデレラ(1) 語られたシンデレラ 第13回 イギリスのシンデレラ(2) 書かれたシンデレラ 第14回 イギリスのシンデレラ(3) シンデレラの再創造 第15回 児童文学とマザーグース ※受講者の興味・関心などにより変更する可能性がある	参考書	The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes, ed. by Iona and Peter Opie. Oxford Univ. Press, c1951. The Oxford Nursery Rhyme Book, assembled by Iona and Peter Opie. Oxford Univ. Press, 1955. The Lore and Language of Schoolchildren, by Iona and Peter Opie. Oxford Univ. Press, 1959.	
	注意事項			
実務経験 関係する 授業に				

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
木曜 3 時限	29	統計学基礎	今井 千恵	
テーマ	統計は自然科学ではもちろんのこと、社会科学でも基本となる知識である。さらに、社会制度が複雑化し、情報量が急速に増加している現代社会を生きる市民にとって、統計の知識は、企業の広告や宣伝、自治体や国の政策、そして調査研究などの正しさや信頼性を判断するために必須の教養ともいえる。そのために、統計の初心者を対象に、平均やばらつきの意味などから始めて、データの読み方や統計手法についての基礎的な知識を、テレビの視聴率や選挙の出口調査などの具体的な事例を用いながら、わかりやすく説明する。			
授業の目標	まず、身近な統計資料を使って、統計アレルギーを克服する。ついで、社会調査結果を適切に把握できるようになるために、実際のデータを使って演習を行い、基礎的統計能力をつける。最終的に、統計的検定の原理を理解し、対象や現象にあった統計方法を選択して、データ結果を正確に把握して、分析結果をわかりやすい文章で書けるようにする。			
授業の方法	(講義)配付資料を利用しながら講義を行い、必要に応じて演習問題を解いていく。 今年度は対面授業です。			
方法・基準の評価	主に試験によって評価する。			
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①講義の目的と概略 第1回 ②身近な統計とリサーチ・リテラシー 第2回～第3回 ③社会理論と統計 第4回 ④やってはいけない社会調査の事例 第5回 ⑤変数と尺度 第6回 ⑥度数分布 第7回 ⑦代表値とちらばりの尺度 第8回 ⑧標準偏差 第9回 ⑨クロス集計表 第10回 ⑩χ^2 二乗検定の原理(計算方法と分析結果の書き方) 第11回～第12回 ⑪相関係数の原理と計算方法 第13回～第14回 ⑫まとめ 第15回 	テキスト	教場にて適宜指示する。	
		参考書	『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』(吉田寿夫著、北大路書房、1998年)	
		注意事項	出席した際に、実際に計算を行う姿勢で臨むこと。	
実務経験 関係する 授業に	特になし			

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
木曜 3 時限	30	中国経済論	俞 嶸
テーマ	<p>改革開放政策実施後における中国の経済政策と経済情勢の変化をたどる。計画経済から市場経済への移転に焦点を当て、それに関わるマクロ経済の諸テーマに基づき中国経済の現状を捉え、「経済」というキーワードを通して中国理解を深める。市場経済の基本的な仕組みを理解すること、「中国脅威論」と「中国崩壊論」といった正反対の論調が並行する中国経済のマクロ的背景を理解すること、そして経済成長の意義について考えることを目的とする。</p>		
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の経済システムの移行、高度成長の源泉、抱えている課題について理解できるようになる。 ・開発経済学の理論に基づき中国の経済成長と経済問題を分析できるようになる。 		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は原則として講義形式で行う。 ・授業において「グループワーク」および「リアルタイムアンケート」(respon など)を行う。 		
評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・期末レポート70% ・その他 30% (授業における積極性・課題の提出状況と出席回数で評価します) <p>※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。</p>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①イントロダクション・開発経済学の視座 ②市場経済化の意味Ⅰ ③市場経済化の意味Ⅱ ④中国の成長モデルと構造変化 ⑤国有企業と民間企業 ⑥農業・農村・農民とレイス・モデル ⑦労働力市場と人口ボーナス ⑧中国の格差とクズネッツ仮説 ⑨マクロ経済政策——財政 ⑩マクロ経済政策——金融 ⑪外向型発展モデルと中国Ⅰ 貿易政策 ⑫外向型発展モデルと中国Ⅱ 外国直接投資 ⑬持続的な発展は可能か？ エネルギー・環境問題 ⑭中国経済の課題Ⅰ：「新常态」、中所得のワナ、産業高度化 ⑮中国経済の課題Ⅱ：開発主義、政府の役割と市場の役割 	テキスト	教科書は使用しない。資料は各回の授業時に配布する。
		参考書	<ul style="list-style-type: none"> ①丸川知雄『現代中国経済』新版(有斐閣、2021) ②南亮進、牧野文夫 編『中国経済入門 第4版 高度成長の終焉と安定成長への途』(日本評論社、2016) ③中兼和津次『開発経済学と現代中国』(名古屋大学出版会 2012) ④末廣昭、田島俊雄、丸川知雄(編集)『中国・新興国ネクサス 新たな世界経済循環』(東京大学出版会 2018年)
		注意講事項	・授業の欠席が一定回数を超えた場合、成績評価の対象としない。
実務経験	授業に		

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
木曜 5 時限	31	モノ・コト論	宮地 良治	
テーマ	豊かで快適な暮らしのためのデザインとは、いわゆる製品に代表される「モノ」のみならず、それらを通して得られる経験や物語といった「コト」が重要な位置を占めている。そんなモノ・コトについて考え、新しい価値を提案していく上で必要な考え方や技術、手法についての基礎を学ぶ。人とモノとそれを取り巻く生活環境との関係を基本に、人々の生活に潤いを与えるデザイン提案のための基礎的能力の獲得・向上をモノ・コトの両面からはかる。			
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かで快適な暮らしの為のデザインとは何か？を考える手法を知識として身につけることができる ・「モノ・コト」両面から発想して、次世代の新しい価値提案に必要な考え方を身につけることができる ・「コト」発想の事例を通して、自身の制作課題テーマで提供価値を創出する手法を身につけることができる 			
授業の方法	[講義]授業は講義形式で行い、担当教員5回、非常勤講師2名が1人4回(計8回)のオムニバス形式で行う			
評価の方法・基準	<p>評価は、レポート課題を担当講師ごとに設定し、3つの課題点数で評価。 不可＝コト視点を理解できていないレポート 可＝おおそ理解できている 良＝良く理解できている 優＝良く理解した上で3課題のうち一つが優れていた 秀＝良く理解した上で3課題のうち2つ以上が優れていた を、各担当講師の観点で評価する。</p>			
授業計画	①ガイダンス (宮地) ②UX 概論(宮地) ③CASE(上海・タイ)の UX 事例(宮地) ④インドネシアの UX の事例(宮地) ⑤MaaS(インドネシア)の UX 事例(宮地) ⑥タイでの UX デザイン開発事例(宮地)	テキスト	なし	
	⑦Beautiful Experiences のフレームとケーススタディ(平田) ⑧Beautiful Experiences のつくり方概論-1(平田) ⑨Beautiful Experiences のつくり方概論-2(平田) ⑩Beautiful Experiences のつくり方概論-3(平田)	参考書	授業の中で適宜紹介する	
	⑪モノとコトの関連について(山田) ⑫モノの性質から情報世界を視る(山田) ⑬モノの本質から環境世界を解く(山田) ⑭モノの未来とコトの拡がり(山田) ⑮まとめ、レポート作成(宮地)	注意講事項	講師の都合により授業スケジュールが変更される場合があるので、授業中やポータルでの連絡等に注意すること。	
授業に関係する実務経験： 講師それぞれに、プロダクトデザイン、UX デザイン、デザインマネジメントの実務経験を有する。				

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
金曜 1 時限	32	音楽史 I	上山 典子
テーマ	主としてヨーロッパの音楽史を扱う。古代ギリシャやローマの音楽理論から始め、グレゴリオ聖歌から初期ポリフォニーの時代、ルネサンス期を概観したのち、バロックからハイドン、モーツァルトの時代、ベートーヴェンからシェーンベルクの時代までを中心に扱い、それぞれの時代様式(響きや構造の特徴)を把握するだけでなく、作曲家の個人様式を代表するような作品を聴きながら、その特性について学習する。また西洋世界における各時代が音楽に何を求め、それが具体的にどのような場で演奏されたのかについても講義する。		
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・西洋音楽史の時代区分の名称とその特徴を把握する ・西洋芸術音楽(いわゆる「クラシック音楽」)の歴史的な流れを把握する 		
授業の方法	講義形式		
評価の方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内あるいは manaba を通して複数回(不定期)求める小課題の提出回数とその記述内容: 50% ・最終回の筆記試験(記述式・資料持ち込み可): 50% 		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 古代ギリシア・古代ローマにおける音楽と音楽思想 ② 中世 キリスト教と音楽 ③ ルネサンス期 音楽史における人文主義の流れ ④ ルネサンス期 宗教改革と音楽 ⑤ バロック時代(イタリア) オペラの誕生 ⑥ バロック時代(フランス) ヴェルサイユ宮殿と音楽文化 ⑦ バロック時代(ドイツ) 教会・宮廷・都市音楽家 ⑧ ロココ様式と初期古典派への移行 ⑨ 古典派(1)ウィーン古典派様式の確立 ⑩ 古典派(2)音楽史における転換期 ⑪ 19世紀前半 音楽とロマン主義 ⑫ 19世紀半ば ロマン主義の成熟 ⑬ 19世紀後半 ポスト・ベートーヴェン時代の音楽史 ⑭ 19世紀後半～末 音楽におけるナショナリズム ⑮ 授業内試験と解説 	テキスト	・毎週、manaba 上にレジュメ(PDF)を配信する
		参考書	・授業内で適宜紹介する
		注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ・全授業回数の 1/3 以上の欠席者は、成績評価の対象とならない。遅刻は 1/3 回分の欠席としてカウントする。(なお、就職活動や資格課程の実習、感染症等による登校禁止期間の出欠の扱いについては、初回授業で説明する。通常の出席・欠席扱いとは異なるので注意が必要。) ・「音楽史 I」は古代から 19 世紀末頃までの西洋芸術音楽の歴史を網羅し、後期(木曜 1 限)開講の芸術文化学科専門科目「文化と芸術 C」(他学科履修可能)で 19 世紀末から 20 世紀半ば頃までを扱う。どちらか一方の履修でも、「文化と芸術 C」を先に履修しても、学習上の問題や不利益は生じない。
実務経験	授業に		

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
金曜 1 時限	33	マーケティング論	森山 一郎	
テーマ	経営環境が大きく変化する中で、企業が市場創造や市場適応を図る上での基本的手段としてマーケティングは重要である。この講義では、マーケティングの目的、基本体系等についての理解を得ることを目的とする。具体的には、マーケティング・コンセプト、市場標的の設定や製品政策、価格政策、プロモーション政策、流通チャネル政策などの統合的管理等がテーマとなる。また、マーケティング領域の広がりという観点から、新たなマーケティング動向についても議論する。			
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティングの基本体系を理解し、説明できる。 ・製品政策、価格政策、販売促進政策、販売チャネル政策の基本的な視点を理解し、説明できる。 ・競争対応、消費者分析のための基本的なフレームワークについて理解し、説明できる。 ・企業における実際のマーケティング活動のあり方について考察し、改善点を提案できる。 			
授業の方法	<p>授業は原則として講義形式で行う。</p> <p>また、映像資料も活用し(第8回 事例研究など)、講義によるマーケティング知識の習得とともに、その実践に関する感性を養うことを目指す。</p>			
評価の方法・基準	<p>平常点(20%)、小レポート及び中間レポート(40%)、学期末試験(40%)にて評価する。 なお、平常点は出席回数、SUAC manaba のコメントシートへの記入回数・内容等に基づき評価する。</p> <p>レポート・学期末試験等における成績の評価基準は下記の通り。 秀: マーケティングの基本体系の十分な理解に加え、マーケティング施策の基本的視点を実際の製品・サービス等に即して具体的に説明でき、新たなマーケティング機会についても指摘できている 優: マーケティングの基本体系やマーケティング施策の基本的視点について十分な理解が得られている 良: マーケティングの基本体系やマーケティング施策の基本的視点について概ね理解が得られている 可: マーケティングの基本体系やマーケティング施策の基本的視点について基礎的な理解は得られている</p>			
授業計画	1. イントロダクション(マーケティングの思考法)	ステ トキ	使用しない。	
	2. マーケティングの基本体系		毎回講義資料とともに、必要に応じて、各回の内容と関連した参考資料・文献等を共有する。	
	3. 製品戦略	参 考 書	久保田進彦・澁谷覚・須永努著、『はじめてのマーケティング[新版]』、有斐閣、2022年	
	4. 価格戦略		和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦著、『マーケティング戦略[第6版]』、有斐閣、2022年	
	5. プロモーション(販売促進)戦略		崔相鐵・岸本徹也・森山一郎他著、『1からの流通システム』、中央経済社、2018年	
	6. 販売チャネル戦略			

令和6年度前期

	<p>7. 競争対応のマーケティング 8. 事例研究①:マーケティングの現場(VTR等) 9. 消費者行動の分析 10. ブランディング①:ブランドの構築と管理 11. ブランディング②:地域ブランド 12. サービス・マーケティング 13. 小売マーケティングとコンビニエンス・ストア 14. 事例研究②:マーケティングの現場(外部講師等) 15. まとめ:マーケティング活動の展望 16. 学期末試験</p>	<p>受講事項の 注意事項</p>	<p>・出席が講義回数の3分の2に満たない受講者は成績評価の対象とはしないので注意すること。 ・各回の講義資料や参考資料はSUAC manabaにて公開するので、欠席した場合は確認すること。</p>
<p>実務経験 関係する 授業に</p>	<p>担当教員は、小売業・製造業において長く経営企画・マーケティング等の業務に従事してきた。本講義でも、その経験を生かし、経営・マーケティング理論の実践的課題について紹介するなど、受講者の現実社会に対する感性や適応力を高められるような講義運営を心がける。</p>		

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
金曜 2 時限	34	メディア文化論	加藤 裕治
テーマ	この授業では、メディアが人々や社会に与える影響や、メディアが生み出す文化について考察する。現在、IT や映像を活用した多様なメディア実践が出現し、私たちの日常世界に浸透している。こうした現在の状況を俯瞰しつつ、その環境を理解するために、新聞や書籍等の印刷メディア、あるいは映画やテレビといった既存の映像メディア等、従来からのメディアが担ってきた役割や意味を考察する。その上で、多様化する現代メディア社会における人々の情報選択やコミュニケーションの実践についての理解を深める。		
授業の目標	この授業では、下記の学修を到達目標とします。 <ul style="list-style-type: none"> ・19 世紀以降のテクノロジーメディアを考察対象としながら、現代にまで至るテクノロジーメディアの特徴を理解し、論じることができることを目指します。 ・テクノロジーメディアの中心をなす映像メディアが、私たちの社会生活や文化にどのような変化や影響をもたらしたのかを理解し、その観点から現代社会を捉え直す認識を得ることを目指します。 ・上記の理解を通じて、映像を中心としたメディアに対するリテラシーを高め、映像を利用した各種の実践活動にも応用できることを目指します。 		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は講義形式で授業を進めます。 ・授業は原則、対面で行います。パワーポイント、映像資料、manaba を利用します。 ・授業理解の確認(復習)と、次回授業の論点を提供するため、毎回の授業でコメントペーパーを記入してもらいます。このペーパーをもとに毎回の授業では「テキストを用いた双方向コミュニケーション」によるレスポンスを実施します。 		
評価の方法・基準	<p>下記の合計点で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学期末レポート(得点の割合:60%) ・授業内で毎回提出してもらおうコメントペーパー(得点の割合:40%)。コメントペーパーは各回授業への理解度と記述内容を中心に評価します。 <p>※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。</p>		
授業計画	①はじめに:映像に取り囲まれた社会の現状を考察する	ステキ	特定のテキストは使用しません。適宜、プリントなどを配る場合があります。
	②写真というテクノロジー ③映画というテクノロジー ④テレビというテクノロジー ⑤パソコンというテクノロジー	参考書	長谷正人編『映像文化の社会学』(有斐閣)。他にも適宜、授業内で参考文献を紹介します。
	⑥個人をつくる映像文化 ⑦コミュニケーションをつくる映像文化 ⑧社会をつくる映像文化 ⑨医療における映像文化 ⑩警察と軍事における映像文化 ⑪人類学における映像文化 ⑫スターという映像文化 ⑬心霊現象という映像文化 ⑭アニメーションという映像文化 ⑮授業のまとめ:映像文化と社会の関係性の行方	注意講事上項	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業の資料と課題は SUAC manaba にて公開します。授業に欠席した場合、SUAC manaba を確認すること(欠席の連絡メールは読みますが返信はしません)。 ・コメントペーパーやレポートの提出期限を守ること(期限を過ぎた場合、原則、成績評価の対象にはなりません)。
授業に係る実務経験:			

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
金曜 2 時限	35	インテリアデザイン論	植田 道則	
テーマ	<p>私たちの生活の周囲をかたちづくる空間としての環境や「住まいの道具」を対象として、その意味・役割を知り、素材や製法などのデザインの基本作法を考えていく。インテリア計画に必要な法的知識や人間工学を学び、最新事例からトレンドを研究したり、実例をもとにさまざまなトレンドや設計の勘どころを理解していく。ここでは必然として生じた歴史と流行を系統立てて身につけ、常に時代に影響されてきた空間デザインの姿を知る。</p>			
授業の目標	<p>インテリアデザイン論では、下記のように学修到達目標を設定しています。</p> <p>第一目標：空間造形デザインの幅広い分野に共通するデザインの基本知識を身につけ、各々のデザイン分野で活かせる基礎的な手法を身につける。</p> <p>第二目標：インテリアデザインのプロセスや役割を理解し、幅広いデザイン分野に適応できるノウハウを身につける。</p> <p>第三目標：インテリアデザイン上の実践面でのポイントや手法・テクニック等を理解し、資格取得に必要な基礎知識を身に着ける。</p>			
授業の方法	<p>授業は原則として講義形式で行い、第 14～15 回は演習形式を併用して行う。</p> <p>manaba 上でレポート課題を提示して、指定期日までに提出してもらい、レビューと解説を行います。</p> <p>各回の授業は各テーマに沿って、履修者との対話を交えながら進めます。</p> <p>アクティブラーニングの一環として、「マイフェイバリットショップ」をテーマに、ライフスタイルの一端を担う商業建築について、学生を起点としたプレゼンテーションを行い、相互・能動的な意見の交換を促します。また、これからのインテリアデザインの一翼を担う「香りデザイン」について、ゲスト講義(予定)を行い、実務・実践上のデザイン活動に触れ、創造的なインテリアデザイン業務への意欲を高めます。</p>			
方法・評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・試験 50% (中間と期末)、 ・レポート課題提出各 40%、 ・出席率と授業への積極的な参加度合い 10% <p>上記を勘案して評価します。</p>			
授業計画	<p>第 1 回目：ガイダンス、インテリアデザインと私(道後温泉界限の一連の作品を通じて)</p> <p>第 2 回目：現代インテリアデザインについて(その1)</p> <p>第 3 回目：現代インテリアデザインについて(その2)</p> <p>第 4 回目：インテリアデザイナーの仕事(道後館 料亭 花数寄のデザインを通じて)※R</p> <p>第 5 回目：「香りのデザイン」※1、※A</p>	テキスト	各回ともオリジナルテキストを manaba に掲載します。	
	<p>マイフェイバリットショップレポートのプレゼンテーション</p>	参考書	授業の中で紹介します。購入は必須ではありません。	

	<p>(学生からの発信を数回に分け実施)※R 第6回目:インテリアコーディネートについて 第7回目:インテリアエレメント・関連エレメントについて 第8回目:中間試験 第9回目:インテリアの素材と演出(その1)(ガラス、石等) 第10回目:インテリアの素材と演出(その2)(塗装と各種内装仕上) 第11回目:インテリアと設備・構造・構法の関係について 第12回目:環境と設備 第13回目:インテリア関連の法規、規格、制度、マイフェイバリットショップレポートまとめ ※R 第14回目:インテリアデザイン表現(一消失点平行透視図法解説)、演習 第15回目:インテリアデザイン表現(ホテル客室を用いた、インテリアデザインの実践演習) 試験期間:期末試験および※2 注: ※1:ゲストによる講義を予定しています ※2:試験期間での期末試験 ※R:manaba上でレポート提出があります。 ※A:受講後のアンケートを実施予定です。</p>	<p>受講上の 注意事項</p>	<p>【交通費等の費用負担】 フィールドワークの伴う「マイフェイバリットショップレポート」の取組みにかかる交通費等は学生負担となります。</p> <p>【持参するもの】 ・必ず持参いただくものとして、筆記用具・ノートとスマートフォン。 スマートフォンを持参できない場合は、WiFiに接続できるノートPC。その他は、授業の際に伝えますが、コンベックス(簡易な寸法計測器)、ノートPC等があります。</p>
<p>実務経験 関係する 授業に</p>	<p>実務経験:総合建設業の設計部門にて、建築とインテリアデザイン(FFE (FURNITURE、FABRIC、EQUIPMENT(照明・備品)含む)、新築・増改修・ランドスケープ等、多岐に渡るデザイン活動に、1990-2021年まで携わる。 実務経験に関する授業内容:建築士関連および建築関係法規の基本事項、建築設計実務に関わる必要基本事項について、実務設計上の留意事項について講義する。</p>		

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
金曜 3 時限	36	比較文化論	永井 敦子	
テーマ	文化とは何か、文化の違いをどのように捉え、どのように比較するのか、といった文化の見方について検討する。まず文化に優劣はないという文化相対主義的な基本認識に立ち、時代・地域・集団ごとに異なるものとして文化を捉え、各々の文化の独自性と固有の価値観を考察する。その上で、複数の文化が接触し合い相互に影響する、または異文化を鏡として自らの文化を形成する過程に注目し、文化が相互に変容する可能性をも考察する。			
授業の目標	<p>a: 文化相対主義に基づいた文化の記述方法を理解する。</p> <p>b: 文化相対主義という考え方が重視されるようになった歴史的背景を理解する。</p> <p>c: 事実ないしは実態に基づいて自文化または異文化について記述するために、適切な方法で調査・研究を進めることができる。</p> <p>d: 自文化または異文化について論理的・客観的に記述することができる。</p> <p>e: 異文化理解と異文化交流を推進するための態度と志向性を適切に示すことができる。</p>			
授業の方法	<p>授業は講義形式で行う。</p> <p>SUAC manaba を通じて資料を配布し、また課題の提出を求める。</p> <p>授業の毎回について、manaba に質問・コメントの書き込みを求める。</p> <p>授業時間内に課題文献等について学生が意見を共有するための「グループワーク」を求めることがある。</p> <p>授業期間中の課題として「調査学習」の成果を問う小レポート5本を課す。</p>			
評価の方法・基準	<p>最終成績は、以下を合計する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終レポート 30 点満点。 ・中途課題の小レポート 50 点満点(5 本各 10 点満点)。 ・平常点 20 点満点。 <p>最終レポートの評価は以下の通り。</p> <p>秀(90-100%)=すべての点を達成したと認められる場合。</p> <p>優(80-89%)=aとbまたはaとcの2点を含む4点を達成したと認められる場合。</p> <p>良(70-79%)=aとbまたはaとcの2点を含む3点を達成したと認められる場合。</p> <p>可(60-69%)=aとbまたはaとcの2点を達成したと認められる場合。</p> <p>不可(59%未満)=a~cの2点を達成したと認められない場合。</p>			
授業計画	<p>第1回: I 文化とは何か(1) 人間集団の区別</p> <p>第2回: I 文化とは何か(2) 人文学と文化研究</p> <p>第3回: I 文化とは何か(3) カルチャーショック</p> <p>第4回: II 文化の諸相(1) 言語と文化 1 言語とは何か</p> <p>第5回: II 文化の諸相(2) 言語と文化 2 言語は文化を分けるか</p> <p>第6回: II 文化の諸相(3) 宗教と文化 1 宗教の多様性</p>	テキスト	指定しない。	
	参考書	静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科『国際文化学への第一歩』(すずさわ書店、2013 年)、その他、授業中に紹介する。		

令和6年度前期

	<p>第7回: II 文化の諸相(4) 宗教と文化 2 宗教はなぜ文化を分けるか 第8回: II 文化の諸相(5) 産業と文化 1 産業社会とは何か 第9回: II 文化の諸相(6) 産業と文化 2 産業社会における文化とは何か 第10回: II 文化の諸相(7) 国家と文化 第11回: III 異文化とのつきあい方(1) 国内の「異文化」と国民統合の歴史 第12回: III 異文化とのつきあい方(2) 文明化と帝国主義の歴史 第13回: III 異文化とのつきあい方(3) 貿易と、文化の伝播と差異化の歴史 第14回: III 異文化とのつきあい方(4) グローバリゼーションと多文化主義 第15回: オンライン・ゲスト講義「文化とエスニシティ」(仮題) ※ ゲスト講義の回は、確定し次第、周知する。</p>	<p>受講事項の 注意</p>	<p>平常点は manaba の毎回の質問・コメントの投稿内容によって評価する。</p>
<p>実務経験 授業に 関係する</p>			

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
金曜 4 時限	37	非営利セクターの経営	石田 祐
テーマ	これからの市民社会の担い手とされる民間非営利組織についての歴史、制度や理論的知識を身につける。「使命」の重要性やボランティア、ファンドレイジングの問題等、営利企業の経営との違いについてドラッカーをはじめとした近年の非営利経営の理論を踏まえつつ体系的に学ぶ。その上で、芸術文化やまちづくり等の分野における活動事例、マネジメント上の課題などについて概観し、あわせて、政府や営利企業等との役割分担や連携のあり方についても検討する。		
授業の目標	これからの市民社会の担い手とされる民間非営利組織についての歴史、制度や理論的知識を身につける。「使命」の重要性やボランティア、ファンドレイジングの問題等、営利企業の経営との違いについてドラッカーをはじめとした近年の非営利経営の理論をふまえつつ体系的に学ぶ。また、近年注目を集めている NPO の政策起業についてその背景と活躍する人材の共通要因を分析する。そのうえで、芸術文化やまちづくり等の分野における活動事例、マネジメント上の課題などについて概観し、あわせて、政府や営利企業等との役割分担や連携の在り方についても検討する。		
授業の方法	非営利組織の基本的な経済理論や経営理論を理解するとともに、非営利組織の経営を考えるためにファンドレイジング、ファイナンス、マーケティング、広報、政策展開のための要件などの理論と実際の課題を理解することのできるケースを用いて授業を進めます。また、実際のデータを用いて簡単な分析を行い、非営利セクターの経営に関する考察を行います。		
基準 方法・評価の	各回授業における振り返り小レポート(70%)および期末レポート(30%)による総合評価		
授業計画	第1回 インTRODクシヨンー非営利組織の経営と非営利セクターの課題	テキスト	マイケル・ミントロム(2022)『政策起業家が社会を変えるーソーシャルイノベーションの新たな担い手』ミネルヴァ書房。
	第2回 NPO の定義と制度	参考書	浦坂純子(2017)『あなたのキャリアのつくり方ーNPO を手がかりに』ちくまプリマー新書。
	第3回 NPO の歴史と理論		坂本治也編(2022)『日本の寄付を科学するー利他のアカデミズム入門』明石書店。
第4回 NPO のミッションとビジョン	注 意 講 事 上 項	Grobman, G. M. (2020) An Introduction to the Nonprofit Sector: A Practical Approach for the Twenty-First Century, 6th edition. White Hat Communications.	
第5回 ケーススタディ:ミッションとファイナンス		フィリップ・コトラー & ニール・コトラー(2006)『ミュージアム・マーケティング』第一法規。	
第6回 NPO のファンドレイジング		ピーター・ドラッカー(1991)『非営利組織の経営ー原理と実践』ダイヤモンド社。	
第7回 ケーススタディ:資金調達と理事会ガバナンス			
第8回 NPO のマーケティング			
第9回 NPO の財務			
第10回 NPO のアドボカシー・ロビイング機能と政策起業			
第11回 非営利セクターにおける政策起業家の行動			
第12回 非営利セクターにおける政策起業家の特性			
第13回 震災復興と政策起業家の台頭			
第14回 NPO、ソーシャルビジネス、政策起業家の実態			
第15回 まとめー非営利組織の経営と非営利セクターの展望			
授業に関係する実務経験: 行政:宮城県公益認定等委員会委員、栗原市行政改革アドバイザー(市民協働)、栗原市指定管理者選定委員会、ほか NPO:公益財団法人ひょうごコミュニティ財団専門アドバイザー、認定特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる代表理事、ほか			

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
金曜 4 時限	38	フランス文化論	中田 健太郎
テーマ	論理性、批評性、社交性、個性尊重という側面に焦点を当て、フランスの文化と社会の成立を歴史的に概観し、その特質について考える。主に扱うテーマとして教会建築(中世)、フランス語の成立、教育制度、19世紀パリ改造、戦後の経済成長と移民政策、女性の社会進出など。同時にリアルタイムで話題になっている時事トピックにも言及しながら、近年フランスが直面する社会の変容とその課題も考察する。美食やモードといった表層的イメージから一歩踏み込んで、ヨーロッパ、そして世界の中のフランス文化の独自性を理解する。		
授業の目標	フランスの文化・社会の特質について学ぶ。 フランス社会の歴史的な推移を把握しながら、時代ごとに特徴的な文化事象について理解し、フランス文化の特質について論じられるようになる。 フランスの文化について学ぶことをとおして、地域文化論的思考を身につける。		
授業の方法	授業は講義形式で行います。 フランス社会の歴史的な変遷をたどりつつ、時代ごとにとくに特徴的な文化事象をとりあげていきます。さまざまなフランス文化・芸術に触れ、フランス文化の特質について考えます。 SUAC manaba を利用したアンケート、情報提供等を行います。 学期中には適宜、フランス文化にたいする理解を深め、レポート執筆法の基礎を確認するための、課題に取り組んでもらいます。 学期末には、フランス文化について論じるレポートを執筆してもらいます。		
方法・評価の基準	平常点(課題への取り組み)50%、学期末レポート 50%。 学期末レポートを提出しない場合、成績は「不可」とする。 ※成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠します。		
授業計画	第1回:ガイダンス フランスの成立 フランス語	テキスト	プリントを配布します。
	第2回:フランスの地理 食文化	参考書	授業内で指示します。
	第3回:中世のフランス社会(一) 騎士道文学 写本文化 第4回:中世のフランス社会(二) 教会と生活 教会建築 第5回:フランスの近世 王朝文化 お城の建築 第6回:フランス革命とその意義 教育制度 第7回:19世紀のフランス社会 パリ大改造 第8回:20世紀のフランス社会 戦争・技術・経済 第9回:フランス語圏の文学・思想(一) 第10回:フランス語圏の文学・思想(二) 第11回:フランスと芸術(一) 絵画 第12回:フランスと芸術(二) 写真・映画 第13回:現代のフランス共和国(一) 移民政策・海外県 第14回:現代のフランス共和国(二) フランス社会の現在 第15回:まとめ ファッション文化	注意・注意事項	授業計画は、実際の進捗や受講者の関心などにしたがって、変更となる場合があります。
	授業に関する実務経験:		

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
金曜 4 時限	39	英語文学概論B	Ryan Jack
テーマ	アメリカの時代背景を重視しつつ、とりわけアメリカ文化・社会地域問題・移民・異文化等の重要な学問的トピックとも関連させながら、第二次世界大戦後の主要なアメリカ文学作品(映像作品を含む)を読み解いていく。原作、映像作品、文献資料を調べて、グループでプレゼンテーションをして、クラス貢献をする学生参加型の授業である。口頭発表をするとともに、クラス全員で質問やコメント、補足や各自の意見を提出して、作品に対する印象や感想を交換する。		
授業の目標	本授業では、以下を目標とする。英語文学の全軌跡の歴史的背景に慣れてもらうこと、文学的重要性に触れさせること、文学と創造的言語使用を評価する能力を育成すること、批判的思考と分析の技能を伸ばすこと、英語による大学の中級講義スタイルを通して上記の内容を教授すること。		
授業の方法	【第1週目は、対面で行います。】 The basic lesson flow for all lessons will be the following: Warm-up, check of homework, interactive lecture/note-taking, video/listening activity, interactive reading and/or discussion, review, assign homework for following week. All students will be expected to actively participate in all activities. 基本的な15週の授業の流れは、次の通りである。ウォーム・アップ、課題のチェック、やり取りのある講義/ノートテイク、ビデオ/リスニング・アクティビティ、翌週の課題の提示。学生は授業ですべての活動に対する積極的参加が求められる		
評価の方法・基準	Active Participation: 30%, Midterm: 25%, Final Exam: 25%, Book Reports: 20% アクティビティへの参加 30%, 中間試験 25%, 期末テスト 25%, ブックレポート 20%		
授業計画	第1回:Lecture 1 - Thomas Paine トマス・ペイン	テキスト	
	第2回:Lecture 2 - Herman Melville ハーマン・メルヴィル		
	第3回:Lecture 3 - Mark Twain マーク・トウェイン	参考書	The instructor will provide course materials. 担当教員は全ての資料を配布
	第4回:Lecture 4 - Henry James ヘンリー・ジェイムズ		
	第5回:Lecture 5 - Sinclair Lewis シンクレア ルイス		
	第6回:Lecture 6 - Zora Neale Hurston ゴラ・ニール ハーストン		
	第7回:Lecture 7 - William Faulkner ウィリアム フォークナー		
	第8回:Midterm Exam (Covering material from lectures 1 - 7) 中間試験(講義1~7)	注意事項の	
	第9回:Lecture 8 - ジョン スタインベック		
	第10回:Lecture 9 - Ralph Ellison ラルフ・エリソン		
	第11回:Lecture 10 - Philip Roth フィリップ ロス		
	第12回:Lecture 11 - Toni Morrison トニ・モリソン		
	第13回:Lecture 12 - Amy Tan エイミ・タン		
	第14回:Lecture 13 - Junot Diaz ジュノ・ディアズ		
	第15回: Final Exam (Covering material from lectures 8 -13) 中間試験(講義 8~13)		
実務経験	授業に		

令和6年度前期

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員	
金曜 4 時限	40	環境政策論	前田 恭伸	
テーマ	<p>現在地球規模に広がりつつある環境問題の克服には産業技術、生活様式、国土構造さらには社会経済システムの根本的な転換が必要とされることを踏まえて、環境汚染・廃棄物処理など、直面する問題に対して有効であり、かつ上記の変革も推進しうるような環境政策のあり方を考察する。さらに、都市や地域の生活環境の観点(アメニティや安全性など)から、都市環境施策のあり方についても検討する。</p>			
授業の目標	<p>よりよい環境政策選択のために様々な手法が提案されている。本授業ではそれらのうち、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・費用便益分析 ・環境アセスメント ・ライフサイクルアセスメント ・環境マネジメントシステム ・リスクアセスメント ・リスクコミュニケーション ・リスクマネジメント <p>を取り上げ、解説する。 学修到達点として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それら概念について理解すること ・それら概念を用いて、どのような環境政策が望ましいのか、どのような政策決定が求められるのかを考察・検討できるようになることを目標とする。 			
授業の方法	<p>授業は基本的に講義形式で行う。ただし、一部で「グループワーク」(ゲーミング)や「調査学習」(レポート課題)、「対話型授業1」(総合討論)などの演習を行う。授業は、パソコンによるプレゼンテーションと配布資料の組み合わせにより講義を行う。必要に応じて映像教材の視聴も交える。補助的に SUAC manaba を使用する。</p>			
評価の方法・基準	<p>授業中のレポート課題と期末試験により評価する。配分は、レポート課題 50%、期末試験 50%。 成績評価は、静岡文化芸術大学の成績評価基準に準拠する。</p>			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 身の回りの環境問題 ② 環境問題の歴史 ③ 地球規模の環境問題 ④ 社会経済システム - 何が問題か ⑤ 環境政策選択のシステム ⑥ 費用便益分析 ⑦ 環境アセスメント 	テキスト	<p>特定の教科書は指定しない(現状で授業計画全体をカバーするテキストが見つからないため)。 教科書の代わりに SUAC manaba にて資料を配布する。</p>	
		参考書	<p>環境政策論/岡敏弘/1999/岩波書店/税込 3900 円 /ISBN9784000260220 リスク管理と民主主義/瀬尾佳美/2022/明石書店/税込 2750 円/ISBN9784750353517</p>	

令和6年度前期

	<ul style="list-style-type: none"> ⑧ ライフサイクルアセスメント ⑨ 環境マネジメントシステム ⑩ リスクアセスメント(「調査学習」) ⑪ リスクコミュニケーション(「グループワーク」) ⑫ リスクマネジメント ⑬ リスクマネジメントの課題 ⑭ 評価関数:何から手をつければいいのか? ⑮ 総合討論(「対話型授業1」) 	<p>注 受 講 事 項 の</p>	<p>出席に関する事項: ・各授業の資料と課題は SUAC manaba にて公開する。授業に欠席した場合、SUAC manaba を確認すること。</p>
<p>実 務 経 験</p> <p>授 業 に 関 係 す る</p>	<p>資源エネルギー庁放射性廃棄物共通技術調査技術評価検討会委員(2003年) 浜松市公共事業評価委員会議委員(2005年度～2006年) 浜松市景観審議会委員(2009年～2013年) 日本リスク研究学会会長(2016年～2018年) 静岡県社会体育施設指定管理者評価委員会 (2016年～) ほか</p>		

曜日・時限	科目コード	科目名	担当教員
金曜 4 時限	41	人間工学	迫 秀樹
テーマ	人間にとってよりよいモノや空間をデザインする際に必要となる人間工学の概念や手法について学ぶ。人間工学に関する研究の歴史的背景や現代の企業における応用例などを通し、使用者を中心に据えた製品や空間について企画・検討する力を養う。また、人間工学分野で活用されている各種の測定手法や設計時に使用される既存データに関して、生物学的側面および心理学的側面から概説した上で、その具体的な取得の手順についても解説する。		
授業の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的ならびに認知的な人間工学の原則について説明できる。 ・人間の反応を捉える手法についての概要と取得したデータの意味について説明できる。 ・道具や家具、空間、広告、表示等の事例に内包される人間工学の観点および役割について論じられる。 		
授業の方法	授業は講義形式で行う。教員が作成した資料を提示し、それに解説を加える。提示する資料は manaba でデジタルデータを配付し、講義時は補足資料として紙資料も配付する。また、講義内容に関する理解度について、毎回提出する出席カードで問う。その出席カードに授業内容や人間全般に関する質問を書けば、次回に回答をまとめて配付する。		
評価の方法・基準	<p>評価方法は下の3つを合わせたものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各回の理解度を確認する小テスト(30%) ・8回目に課すレポート(20%) ・16回目に実施する最終試験(50%) <p>レポートの提出期限やテーマおよび最終試験の方法については、その前の授業内にて説明する。</p> <p>評価基準は、授業内容の理解に基づいて人間工学の原則を説明できるか、反応を捉える手法と得られたデータについて説明できるか、各種の事例について人間工学の観点や役割について論じられるかとする。</p>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①イントロダクション…人間工学の定義, 歴史 ②ヒトの身体と負担…筋肉の基礎と発揮力, 関節・姿勢, 日常生活と関節 ③ストレス・安らぎと自律神経…ホメオスタシス, ストレス, ストレス解消と安らぎ ④使いやすさと分かりやすさ…ユーザビリティ, ユーザ工学, ユーザエクスペリエンス ⑤分かりやすさ…情報処理モデル, 意識と無意識, 知覚・記憶, 高齢者 ⑥ヒトを捉える(1)…文献調査, 質問紙法, 面接法, 観察法 ⑦ヒトを捉える(2)…作業結果の計測, 心理的反応の計測 ⑧ヒトを捉える(3)…生理的反応の計測(筋電図, 心電図, 脳波, 眼球電図) ⑨人体寸法とモノ・空間…人体寸法活用時の注意, 距離感, 姿勢・動作の計測 ⑩手作業(1)…霊長類の手, 形状・構造・発揮力, 悪い手作業と改善 ⑪手作業(2)…把持する道具(筆記具など), 入力・操作する道具(キーボード) ⑫椅子(1)…座ることと人間, オフィスチェア(背もたれ, 座面, 座面高) ⑬椅子(2)…机との関係, 様々な座り方と椅子の工夫 ⑭立位と運搬具…立位と座位の違い, 立位作業の工夫, 人力運搬, リュックサック ⑮実験・調査の計画 + 授業のまとめ ⑯評価(最終試験) 	テキスト	作成した資料を manaba で配布する。
	参考書	『設計のための人体寸法データ集』, 生命工学工業技術研究所編など。 その他の参考文献については授業でその都度示す。	
	注意講事上の	試験の範囲は一回目の授業からとする。そのため、できる限り一回目から出席すること。	
	授業に係る実務経験:		

令和6年度前期